



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成19年9月調査分)

《景気の現状判断DI》

	平成19年6月	平成19年9月	前回調査比
茨城県	51.0	47.4	△3.6
県北地域	48.2	47.5	△0.7
県央地域	50.9	45.3	△5.6
鹿行地域	51.7	50.8	△0.9
県南地域	53.5	50.0	△3.5
県西地域	50.9	43.6	△7.3

《景気の先行き判断DI》

	平成19年6月	平成19年9月	前回調査比
茨城県	49.9	50.6	+0.7
県北地域	52.2	53.8	+1.6
県央地域	50.9	47.0	△3.9
鹿行地域	50.4	50.4	0.0
県南地域	49.6	53.6	+4.0
県西地域	46.6	48.3	+1.7

平成19年9月

茨城県企画部統計課

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.htm>

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
(1)	景気の現状判断D I	3
(2)	景気の先行き判断D I	4
2	地域別の動向	5
(1)	景気の現状判断D I	5
(2)	景気の先行き判断D I	7
3	回答率	10
III	景気の判断理由	11
1	景気の現状判断理由	11
2	景気の先行き判断理由	21
3	その他の意見	31

調査の概要

1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。 ※平成19年9月30日現在

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、那珂郡、久慈郡
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、東茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】								
業種名	具	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等		38	39	38	37	36	188
企業関連	製造業（食料品、一般機械器具等）、建設業、金融業等		17	16	17	18	19	87
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等		5	5	5	5	5	25
	計		60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3) の理由
- (5) その他景気に関する意見（自由回答）

4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成19年9月調査の調査期間は平成19年9月1日から9月28日である。

5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数 (D I) は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気動向指数 (D I) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは47.4となった。「やや良くなっている」の回答構成比が減少し、「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したため、6月調査分より3.6ポイント低下し、横這いを表す50を平成17年9月調査以来8期ぶりに下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが6月調査分を下回った。

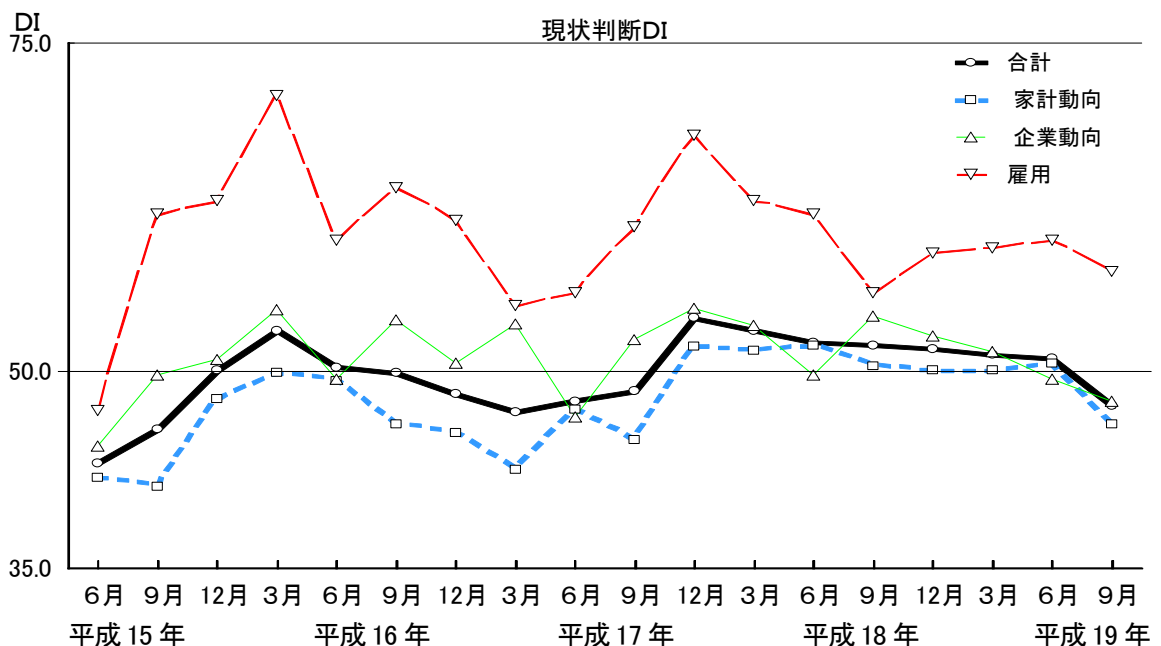
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		52.0	51.7	51.3	51.0	47.4
家計動向関連		50.4	50.1	50.1	50.6	46.0
小売関連		53.2	47.1	49.2	51.1	48.6
飲食関連		46.3	56.9	55.0	47.5	45.0
サービス関連		48.7	51.9	49.0	50.3	42.5
住宅関連		52.8	44.4	55.6	55.6	58.3
企業動向関連		54.2	52.7	51.5	49.4	47.7
農林水産業		46.9	53.1	46.9	50.0	56.3
製造業		52.3	52.8	49.4	50.0	46.3
非製造業		58.6	52.5	55.6	48.4	47.7
雇用関連		56.0	59.0	59.4	60.0	57.6

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成18年 9月	2.8%	28.1%	47.0%	18.6%	3.5%
平成18年12月	3.2%	26.5%	48.4%	17.7%	4.2%
平成19年 3月	1.4%	27.3%	51.1%	15.5%	4.7%
平成19年 6月	2.1%	25.0%	51.0%	18.8%	3.1%
平成19年 9月	3.8%	16.8%	49.1%	25.8%	4.5%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは50.6となった。「良くなっている」「やや良くなっている」の回答構成比が増加し、「悪くなっている」の回答構成比が減少したため、6月調査分より0.7ポイント上昇し、横這いを表す50を2期ぶりに上回った。業種別にみると、企業動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を上回ったものの、家計動向関連DIは6月調査分を下回った。

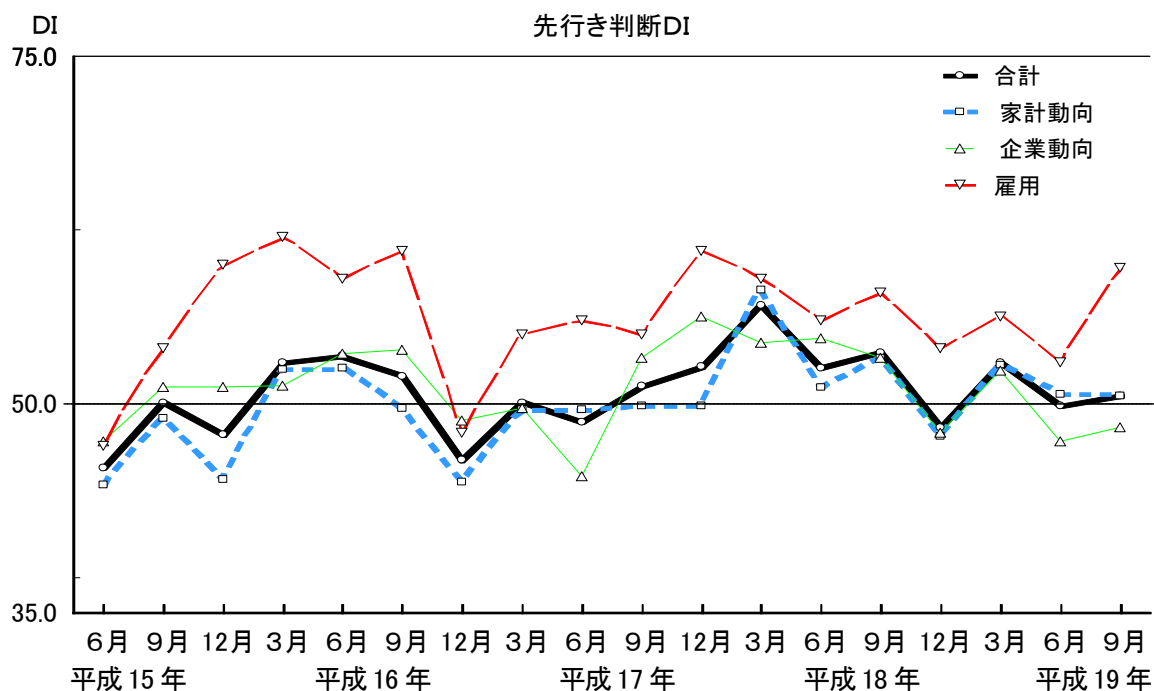
表1 - 3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年 9月	平成18年 12月	平成19年 3月	平成19年 6月	平成19年 9月
合計		53.7	48.3	53.0	49.9	50.6
家計動向関連		53.3	47.7	52.8	50.7	50.6
小売関連		51.4	48.2	53.1	48.6	47.2
飲食関連		63.8	47.2	52.5	45.0	55.0
サービス関連		52.3	47.8	52.6	54.1	52.5
住宅関連		52.8	44.4	52.8	50.0	50.0
企業動向関連		53.3	47.9	52.4	47.3	48.3
農林水産業		59.4	53.1	53.1	50.0	53.1
製造業		54.0	46.6	52.8	45.5	46.8
非製造業		50.8	48.3	51.6	49.2	49.2
雇用関連		58.0	54.0	56.3	53.0	59.8

表1 - 4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成18年 9月	3.9%	26.7%	51.6%	16.1%	1.8%
平成18年 12月	1.8%	14.8%	60.8%	20.1%	2.5%
平成19年 3月	1.1%	27.0%	56.8%	12.9%	2.2%
平成19年 6月	2.1%	21.5%	55.9%	14.9%	5.6%
平成19年 9月	3.4%	23.4%	49.5%	19.6%	4.1%

図1 - 2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断DI

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは47.5となった。6月調査分より0.7ポイント低下し、横這いを表す50を2期連続で下回った。業種別にみると、企業動向関連DIは6月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		49.1	52.2	51.4	48.2	47.5
	家計動向関連	45.0	47.8	50.8	45.8	44.7
	企業動向関連	57.4	58.8	50.0	50.0	51.5
	雇用関連	50.0	60.0	60.0	60.0	55.0

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 9月	5.3%	21.1%	43.9%	24.6%	5.3%
平成18年12月	0.0%	33.9%	46.4%	14.3%	5.4%
平成19年 3月	0.0%	27.8%	55.6%	11.1%	5.6%
平成19年 6月	0.0%	15.8%	63.2%	19.3%	1.8%
平成19年 9月	3.3%	20.0%	46.7%	23.3%	6.7%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは45.3となった。6月調査分より5.6ポイント低下し、横這いを表す50を平成17年9月調査以来8期ぶりに下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが6月調査分を下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		56.0	50.4	52.3	50.9	45.3
	家計動向関連	56.8	50.7	54.3	51.3	45.9
	企業動向関連	54.7	46.4	44.6	48.3	42.2
	雇用関連	55.0	60.0	60.0	55.0	50.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 9月	5.2%	29.3%	53.4%	8.6%	3.4%
平成18年12月	3.6%	17.9%	60.7%	12.5%	5.4%
平成19年 3月	0.0%	29.6%	55.6%	9.3%	5.6%
平成19年 6月	1.7%	20.7%	58.6%	17.2%	1.7%
平成19年 9月	1.7%	10.3%	58.6%	25.9%	3.4%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは50.8となった。6月調査分より0.9ポイント低下したものの、横這いを表す50を2期連続で上回った。また、現状判断DIは全県を通じて最も高かった。業種別にみると、企業動向関連DIは6月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		53.1	53.6	49.1	51.7	50.8
	家計動向関連	49.3	50.0	45.6	49.3	48.0
	企業動向関連	60.9	58.8	54.7	51.5	54.4
	雇用関連	55.0	60.0	55.0	70.0	60.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 9月	1.8%	29.8%	49.1%	17.5%	1.8%
平成18年12月	1.8%	33.9%	44.6%	16.1%	3.6%
平成19年 3月	1.8%	18.2%	58.2%	18.2%	3.6%
平成19年 6月	0.0%	34.5%	41.4%	20.7%	3.4%
平成19年 9月	3.4%	22.0%	50.8%	22.0%	1.7%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは50.0となった。6月調査分より3.5ポイント低下し、横這いを表す50を平成17年9月調査以来8期連続で上回った後、横這いとなった。業種別にみると、雇用関連DIは6月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは6月調査分を下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		52.6	51.3	50.9	53.5	50.0
	家計動向関連	54.4	50.7	50.0	54.3	53.0
	企業動向関連	48.6	50.0	50.0	48.5	40.3
	雇用関連	55.0	60.0	60.0	65.0	68.8

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 9月	1.8%	35.1%	40.4%	17.5%	5.3%
平成18年12月	6.8%	23.7%	42.4%	22.0%	5.1%
平成19年 3月	3.4%	31.0%	39.7%	17.2%	8.6%
平成19年 6月	7.0%	28.1%	42.1%	17.5%	5.3%
平成19年 9月	7.3%	18.2%	43.6%	29.1%	1.8%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは43.6となった。6月調査分より7.3ポイント低下し、横這いを表す50を4期ぶりに下回った。また、現状判断DIは全県を通じて最も低かった。業種別にみると、企業動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を上回ったものの、家計動向関連DIは6月調査分を下回った。

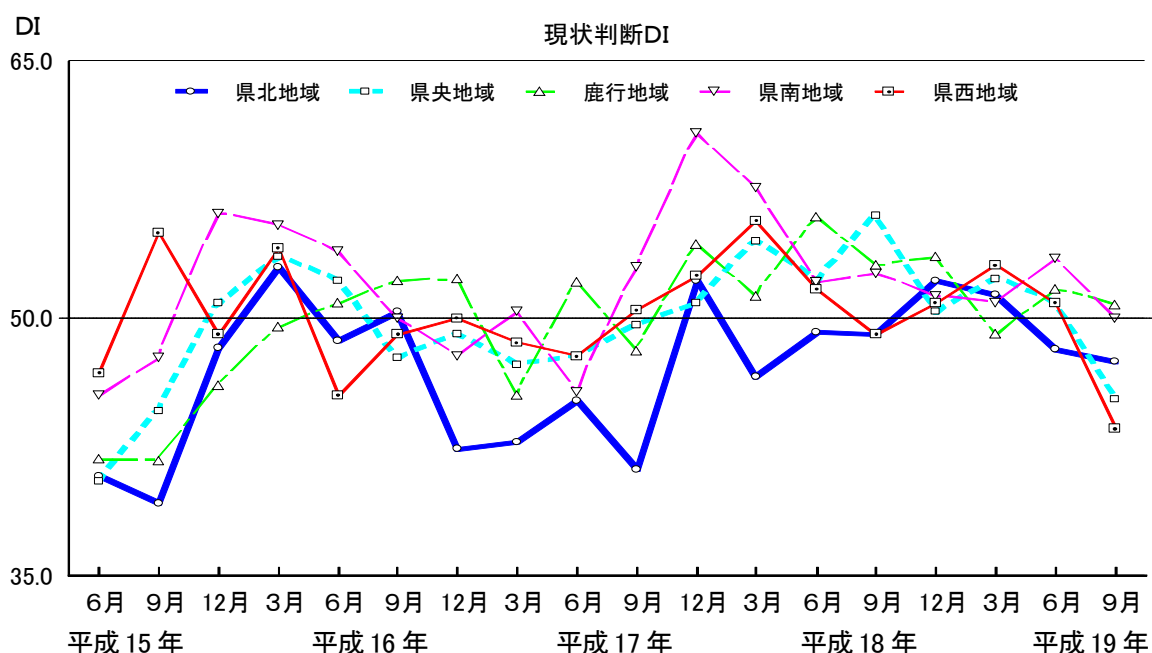
表2 - 9 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		49.1	50.9	53.1	50.9	43.6
家計動向関連		46.3	51.4	50.0	52.2	38.9
企業動向関連		50.0	48.4	56.9	48.7	50.0
雇用関連		65.0	55.0	62.5	50.0	56.3

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 9月	0.0%	25.0%	48.2%	25.0%	1.8%
平成18年12月	3.6%	23.2%	48.2%	23.2%	1.8%
平成19年 3月	1.8%	29.8%	47.4%	21.1%	0.0%
平成19年 6月	1.7%	25.9%	50.0%	19.0%	3.4%
平成19年 9月	3.4%	13.6%	45.8%	28.8%	8.5%

図2 - 1 地域別現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは53.8となった。6月調査分より1.6ポイント上昇し、横這いを表す50を3期連続で上回った。また、先行き判断DIは全県を通じて最も高かった。業種別にみると、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは6月調査分を上回ったものの、雇用関連DIは横這いだった。

表2 - 11 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		54.4	48.2	52.3	52.2	53.8
家計動向関連		51.4	44.9	53.1	52.1	53.9
企業動向関連		60.3	54.4	48.5	51.6	52.9
雇用関連		55.0	50.0	60.0	55.0	55.0

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 9月	5.3%	24.6%	54.4%	14.0%	1.8%
平成18年12月	0.0%	14.3%	66.1%	17.9%	1.8%
平成19年 3月	0.0%	25.9%	59.3%	13.0%	1.9%
平成19年 6月	1.8%	22.8%	59.6%	14.0%	1.8%
平成19年 9月	1.7%	30.0%	53.3%	11.7%	3.3%

県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは47.0となった。6月調査分より3.9ポイント低下し、横這いを表す50を平成16年12月調査以来11期ぶりに下回った。また、先行き判断DIは全県を通じて最も低かった。業種別にみると、企業動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を上回ったものの、家計動向関連DIは6月調査分を下回った。

表2 - 13 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年 9月	平成18年 12月	平成19年 3月	平成19年 6月	平成19年 9月
	合計		53.0	50.9	50.0	50.9
	家計動向関連	53.4	50.7	48.6	53.3	44.6
	企業動向関連	46.9	46.4	50.0	43.3	45.3
	雇用関連	70.0	65.0	60.0	55.0	70.0

表2 - 14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 9月	3.4%	25.9%	51.7%	17.2%	1.7%
平成18年12月	5.4%	10.7%	66.1%	17.9%	0.0%
平成19年 3月	0.0%	22.2%	57.4%	18.5%	1.9%
平成19年 6月	3.4%	15.5%	65.5%	12.1%	3.4%
平成19年 9月	3.4%	17.2%	46.6%	29.3%	3.4%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは6月調査分と同じ50.4となり、横這いを表す50を3期連続で上回った。業種別にみると、家計動向関連DIは6月調査分を上回ったものの、企業動向関連DI及び雇用関連DIは横這いだった。

表2 - 15 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年 9月	平成18年 12月	平成19年 3月	平成19年 6月	平成19年 9月
	合計		49.6	47.8	51.8	50.4
	家計動向関連	48.6	44.1	51.5	47.9	48.0
	企業動向関連	51.6	54.4	50.0	54.4	54.4
	雇用関連	50.0	50.0	60.0	55.0	55.0

表2 - 16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 9月	0.0%	19.3%	61.4%	17.5%	1.8%
平成18年12月	1.8%	16.1%	57.1%	21.4%	3.6%
平成19年 3月	1.8%	25.5%	54.5%	14.5%	3.6%
平成19年 6月	1.7%	24.1%	51.7%	19.0%	3.4%
平成19年 9月	1.7%	27.1%	45.8%	22.0%	3.4%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは53.6となった。6月調査分より4.0ポイント上昇し、横這いを表す50を2期ぶりに上回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが6月調査分を上回った。

表2 - 17 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		60.1	47.5	55.6	49.6	53.6
	家計動向関連	62.5	49.3	55.7	52.9	56.1
	企業動向関連	56.9	43.1	56.9	41.2	47.2
	雇用関連	55.0	50.0	50.0	55.0	62.5

表2 - 18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 9月	7.0%	40.4%	40.4%	10.5%	1.8%
平成18年12月	0.0%	20.3%	54.2%	20.3%	5.1%
平成19年 3月	3.4%	24.1%	65.5%	5.2%	1.7%
平成19年 6月	1.8%	24.6%	52.6%	12.3%	8.8%
平成19年 9月	10.9%	20.0%	47.3%	16.4%	5.5%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは48.3となった。6月調査分より1.7ポイント上昇したものの、横這いを表す50を2期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連D I及び雇用関連D Iは6月調査分を上回ったものの、企業動向関連D Iは6月調査分を下回った。

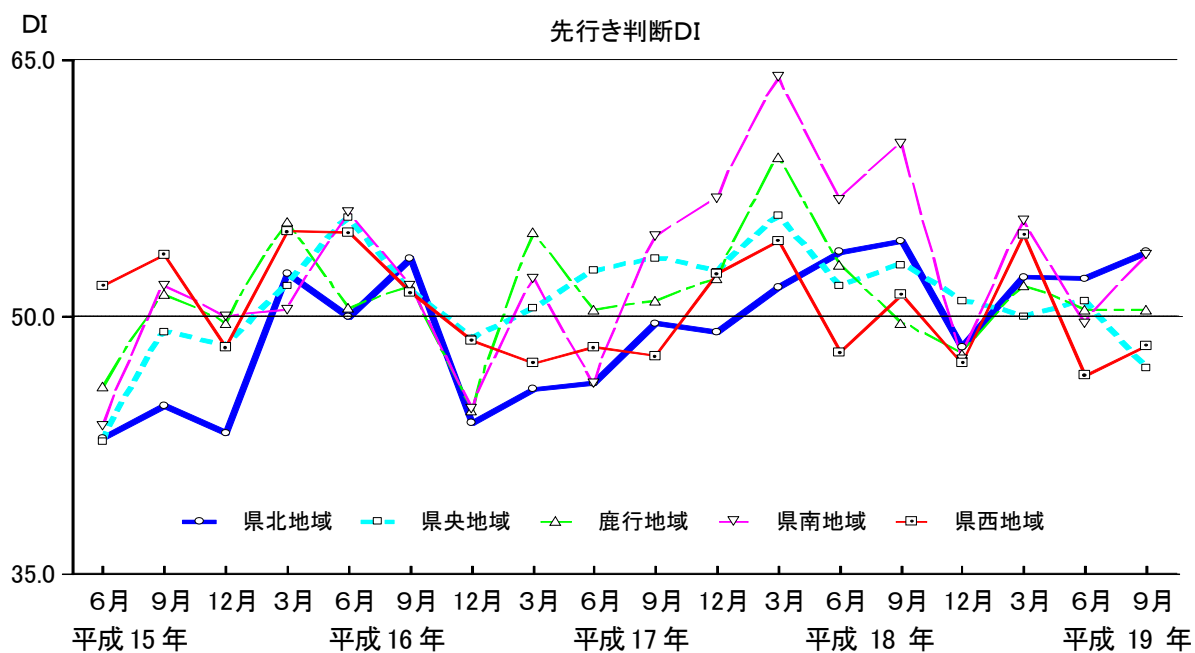
表2 - 19 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		51.3	47.3	54.8	46.6	48.3
	家計動向関連	50.7	49.3	55.0	47.1	50.7
	企業動向関連	50.0	40.6	55.6	46.1	42.1
	雇用関連	60.0	55.0	50.0	45.0	56.3

表2 - 20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 9月	3.6%	23.2%	50.0%	21.4%	1.8%
平成18年12月	1.8%	12.5%	60.7%	23.2%	1.8%
平成19年 3月	0.0%	36.8%	47.4%	14.0%	1.8%
平成19年 6月	1.7%	20.7%	50.0%	17.2%	10.3%
平成19年 9月	0.0%	22.0%	54.2%	18.6%	5.1%

図2 - 2 地域別先行き判断DIの推移



3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	291 人	97.0%
県北地域	60 人	60 人	100.0%
県央地域	60 人	58 人	96.7%
鹿行地域	60 人	59 人	98.3%
県南地域	60 人	55 人	91.7%
県西地域	60 人	59 人	98.3%

Ⅲ 景気の判断理由 — 1 景気の現状判断理由

(1) 県北地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計	ゴルフ場	猛暑の長期予報にもかかわらず、前年同月の来場者人数をクリアしている。1人あたりの単価も前年と同水準を維持しつつ、人の動きが活発になってきている。この傾向は当场だけでなく、近隣のゴルフ場でも同様らしい。また、プレー料金の確認をする人が減少しているのも、顕著な傾向である。
		ゲームセンター	夏休み時期ということもあり、3ヶ月前に比べ来客数は増加した。また、イベント等を実施した効果もあり、売上げも順調に伸びた。
やや良くなっている	家計	スーパー	ちょっと良いもの、美味しいもの、こだわり商品、安全な商品、有名な商品など、ディスカウント商品とは一味違ったものの実績が確実に上がっている。単価の高い商品の動きも良くなっており、カテゴリー別に見ても、平均して売上げが伸びている。
		コンビニエンスストア	天候に左右される部分はあったものの、海・山などへの行楽の動きは予測より多かった。また、客数の伸びに加え、低下し続けていた客単価も従来の水準に戻りつつある。
		衣料品販売店	客数の増加に加え、客単価も多少だが上がってきている。
		農産物直売所	観光客の増加に伴い、売上げが伸びている。
		タクシー運転手	7月後半に開催された「ROCK IN JAPAN FES 2007」を始め、市内の夏祭りなどにより、人の動きは活発だったものの、月々の変動が大きい。
		理容店	夏休みや盆休み、運動会などの行事と、長期連休が重なり、ファミリーでの来店が多かった。
	企業	林業関係者	前年同時期と比較すると、材木価格が2割程値上がりしている。特に4.0m材の値上がり幅が大きい。
		水産業関係者	海流が変化し、暖流が強化されたことにより、まき網漁業は豊漁が続いている。また、沿岸船は待望のシラス到来により若干景気が良くなってきている。しかし、原油の高騰により、収益は大きく圧迫されており、本格的な景気回復には遠い気がする。
		製造業（電気機械器具）	仕事の受注が増えている。
		建設業	民間工事の見積りや受注が増加している。但し、熾烈な価格競争と仕入コストの上昇により、内容は厳しい状況である。
		情報通信業（情報サービス業）	商談が増加しており、受注も増えている。また、外注先を捜しても適任者が見つからないことから、業界全体で同じ状況のようだ。但し、受注単価は依然として低く、収益はそれ程改善していない。
雇用	学校就業関係者	企業からの求人や問合せは増加している。	
変わらな	家計	スーパー	客数や売上高は伸びていない。特売品のような安い商品しか売れていない状況である。
		コンビニエンスストア	売上げ、客数ともに、依然として厳しい状況は変わっていない。特に、客単価の下落が目立っており、1人あたりの買上点数の減少が要因の1つと考えられる。
		衣料品販売店	郊外の専門店や大型店に客足が流れているようで、同業者の数が減少傾向にある。
		家電販売店	7月は冷夏により不振だったものの、8月は猛暑のため夏物家電の売上げが好調だった。このような季節要因を除けば、業況に大きな変化はないが、家電業界は価格競争が厳しく、前年実績を超えることが徐々に難しくなっている。
		自動車販売店	ここのところ、市場が低迷しているので、景気は変わらないと思う。
		小売業（水産物）	客単価が下がっているため、売上げも伸び悩んでいる。
		小売業（靴製品）	特に消費が伸びているとは思えない。
		レストラン	売上げは、3ヶ月前と大きく変わっていない。
		居酒屋	客層の中心はサラリーマンのため、お盆や夏季休暇で客数及び客単価が減少したが、一時的なものだと思う。
		観光型ホテル	季節によって、人の動きに変化はあるものの、3ヶ月前との比較は難しい。
		観光型ホテル	売上げ等に変化が見られない。
		旅行代理店	客単価が上がっていない。
		ドライブイン	8月こそ前年比割れたものの、概ね客単価に変わりはない。今年の夏は暑かったため、海へ向かう行楽客は多かったが、思ったほど消費に繋がらなかったようだ。
		美容室	景気に変化する要因がなく、横這いという感じである。
住宅販売会社	来場者がなかなか増えない。		

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変わらない	企業	製造業（食料品）	売上高については、前回とほぼ同じである。資材や燃料の価格は高騰したままで、収益を圧迫している状況にも変わりはない。
		製造業（電気機械器具）	3ヶ月前と比べて大きな変化はない。
		製造業（電気機械器具）	受注量は若干下降気味だが、売上げは横這いを維持している。
		製造業（電気機械器具）	原油高による製品原価の高騰はあるものの、特に大きな変化はない。
		製造業（電気機械器具）	3ヶ月前と状況は全く変わっていない。同業者の間では、「ただ仕事をやっているだけで、利益にはならない。もう限界だろう。」との声も聞かれる。
		建設業	公共事業が少ないうえに、地域の工事受注も少ないため、あまり動きがない。
		金融業	現状からは、景気が良くなっている実感が全くない。
		不動産業	日立市内の市街地で、4棟のマンションが販売を開始したが、既に供給過剰であり、販売状況には変化がない。
	雇用	人材派遣業	人材の派遣依頼は、3ヶ月前と変わらず来ている。
		求人広告	顧客との会話やスタッフ募集の状況から判断して、3ヶ月前と変わらないように思う。
		公共職業安定所	新規求人数は、1,000人前後の横這いで推移している。また、新規求職者については、依然として減少傾向である。
求人開拓員		求人数は、依然として増加傾向だが、専門職の募集が多く、即景気回復とは言い切れない。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	住民税引き上げの影響なのか、客の消費行動が極端に鈍化している。
		スーパー	今年は、お盆休暇を長期に取得する人が多かったためか、平均して人の移動が多く、売上げのピークとなる山が低かったように思う。そのため、売上げパターンが例年とは変わった。また、8月以降の暑さで、売れ筋商品が変わり、スーパー各社では対応に苦労したようだ。9月以降は、台風等の災害対応により、消費者の購買意欲は更に落ちたかもしれない。
		ガソリンスタンド	大手企業と中小企業の格差は、ガソリンスタンド業界も同様である。仕入段階の価格で、既に差がついてしまう。個人営業の小規模なスタンドでは、粗利5～6%は難しい。そのうえ、セルフサービスのスタンドでは、小規模スタンドの仕入値程度の価格で小売しており、とても太刀打ちできない。
		小売業（酒類）	お盆や夏休み需要の反動もあり、得意先も飲食店も、店売りでも、売上げに期待はできない。
		スナック	盆休みが終わってから、来客数がぐっと減少した。
		和食食堂	例年夏季の売上げは好調なのだが、今年は、当店の近くに在る大企業の夏季休暇が、長期でしかも分散的だったので、客数が少なく感じた。
		タクシー運転手	猛暑の影響で、人の動きが鈍い。
		タクシー運転手	7～9月は、地元大企業の休みが多くなるため、タクシーの利用者も減少し、売上げが下がった。
		レジャー施設	猛暑の影響で、入場者数が前年比2割減となった。
		レジャー施設	猛暑の影響で、売上高も入園者数も、前年同時期と比較して大幅に減少している。
企業	製造業（一般機械器具）	売上高及び収益が落ち込んでいる。	
	製造業（電気機械器具）	顧客からのコストダウン要求が、以前より厳しい。	
	製造業（電気機械器具）	季節的な要因もあるが、売上高及び生産個数が少なくなった。	
	製造業（輸送用機械器具）	ニッケル価格は大幅に下落基調だが、銅、原油、樹脂等の市況価格は依然として高止まっている。銅や樹脂については、価格スライドが可能なものの、原油高騰に伴う動力費、運搬費等の経費分を価格に転嫁することは難しい状況である。また、カーメーカーの国内販売不振に伴い、生産が減少傾向にあるうえ、新潟県中越沖地震の影響で計画を修正する動きもある。	
悪くなっている	家計	観光型ホテル	6～8月の客入りは予想以上に良かったが、毎年9月は宿泊も日帰りも入れ込みが落ちる。
		タクシー運転手	企業の夏季休暇期間が長期化しているうえ、節電のための休日も増えており、営業収入は激減した。
		パチンコ店	来店客が1回あたりで使用する金額が減少している。
		クリーニング店	客数が大幅に減少している。

(2) 県央地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良	企業	製造業(精密機械器具)	自社製品の対前年度比売上高は14%アップ、他社からの委託製造品についても44%アップしている。
やや良くなっている	家計	スーパー	採用が非常にしづらくなっている。
		家電販売店	今年の夏は、猛暑の影響で全般的に好調だった。9月に入っても残暑が長引いており、このまま秋が来ないで冬に突入するのではないかと、半分本気で考えしまう。四季の感覚が、段々なくなっていくようで、妙な感じがする。
		ゴルフ場	予約申込み及びプレーヤーの利用単価が上向いている。また、法人関係の利用も増加傾向である。
		レジャー施設	7月後半は天候不順で海水浴客の出足が悪かったが、8月初旬からは猛暑が続き持ち直した。
		美容室	例年お盆前の時期は忙しくなる。また、今年の夏は暑かったこともあり、客足が伸びた。
	雇用	求人開拓員	求職者は減少しており、求人数はやや増加している。
変 わ ら な い	家計	商店街代表者	売上げ、客数とも、ほとんど変化が見られない。
		商店街代表者	今年の夏は異常に暑かったので、商店街の人通りが例年になく少なかったように思う。
		百貨店、総合スーパー	雇用や所得が改善する一方で、税負担は増えている。近々利上げも想定される現状では、消費者の財布のヒモに変化はない。
		スーパー	来客の買物の仕方を見ていると、他店チラシ等も比較したうえで、特売商品や買い得と思われる商品のみを購入している。
		スーパー	売上げには、特に変化はない。
		自動車販売店	来店客の様子を見ていると、勤務先の企業格差を感じる。また、契約社員やパートが増えているという印象も強い。全体的に財布のヒモが固い気がする。
		専門スーパー	猛暑のため、屋外作業の関連資材の動向が鈍い。ただ、農業の収穫関係資材は平年並みに動いているので、大きな変化はないと思う。
		レストラン	来客数、売上げともに、変わらず推移している。
		レストラン	来客数も売上げも伸びていない。客や同業者からも景気の良い話は聞かない。
		ファミリーレストラン	客数や客単価が変わらない。
		割烹料理店	客数自体に変化はない。但し、客は週末に集中し、平日は閑古鳥が鳴いている状態である。
		都市型ホテル	夏休みも終わり、客数等も3ヶ月前と同等程度に落ち着いている。
		観光型ホテル	例年どおり推移しており、特に大きな変化は見られない。
		旅行代理店	高品質商品と廉価商品の申込比率が高い。旅行の申込みにも、格差社会の一端が見えてきた感がある。
		タクシー運転手	毎月の営業回数に変化はなく、売上げも伸びていない。
		タクシー運転手	売上げ等に大きな変化はない。また、乗客の会話を聞いていても、あまり変化はないように思う。
		レジャー施設	飲食関係は変わらず好調だが、入場者数についてはほぼ平年並みであり、あまり変化は感じない。
		建築設計事務所	既存建物の耐震検査や住宅改修の依頼がほとんどで、新築物件の設計依頼はあまりない。3ヶ月前と比較して、受注状況に変化は見られない。
		住宅販売会社	勤務先の状況に変化がない。依然として厳しいと感じる。
	企業	製造業(食料品)	猛暑続きで、客足が伸び悩んでいる。和洋菓子の売上げが振るわない反面、水ようかんやゼリー類の売上げは好調である。
製造業(印刷・同関連業)		特に変わった様子は見受けられない。	
製造業(金属製品)		受注は順調だが、受注単価は頭打ちとなり、鋼材値上げ等のマイナス要因も強まりつつある。	
製造業(一般機械器具)		製造業の業況は少し良くなっている。現在の仕事量で安定してくれれば良いと思う。	

(2) 県央地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由	
変わらない	企業	運輸業（道路貨物運送業）	原油を始め、原材料の価格が高止まりしている。	
		情報通信業（情報サービス業）	業績面において、規模や業種による企業間格差が一層拡大しているように感じられる。積極的投資マインドの企業がある反面、厳しさを実感し戦略的な見直しを講じる企業も散見される。個人消費の面では、家電販売関連は堅調との感触を受ける一方、スーパー等の小売関連は横這いと感じられた。夏の平均ボーナス支給額の増加等もあり、消費への期待は高かったものの、首都圏と異なり全般的にあまり景気の良い話は聞こえてこない。	
		金融業	大企業等は、好況との話題が出ているが、地方では好景気感はないまま推移している。	
		不動産業	前年と比べ、来客数などが変わらない。	
	雇用	求人広告	あまり目立った動きはないようだ。	
		公共職業安定所	管内7月の事業所業況調査では、普通～好調と回答した企業が、269事業所中189件（70.3%）あり、業況D Iは前年同期調査時より2.4ポイント改善している。雇用保険受給者実人員は、ほぼ昨年度と同じであり、新規求職申込み件数や月間有効求職者数は、ほぼ横這いとなっている。	
		学校就業関係者	7～8月は、就職内定辞退についての相談が何件があったが、内定未定に関する相談はほとんどなかった。就職内定については、4～5月頃と同様、比較的好調な状況が継続している。また、現時点では公務員試験や教員採用試験の最終結果が出ていないが、10月初旬には、この点に関しても状況が明確になると思われる。	
	やや悪くなる	家計	百貨店、総合スーパー	衣料品の消費動向は、気候に左右されており、今すぐ着られるものが売れている。また、残暑や台風の影響から、秋物の動きは足踏み状態である。
			コンビニエンスストア	今年の夏は猛暑だったが、売上げは思ったより伸びなかった。
			農産物直売所	支払いの際、一万円札を出す客が少なくなっている。毎日の精算時、以前に比べ千円札の割合が増えていると感じる。
タクシー運転手			お盆や夏休みが終わり、商店街の人の流れも静かになっている。	
ドライブイン			平日の客入りが悪い。	
ドライブイン			3ヶ月前と比べると、観光客も一般客も減少している。	
観光名所			暑さが長引いているためか、例年に比べ人出が今ひとつである。売上げも人出に比例してあまり芳しくない。	
ゲームセンター			競合店が増えたことにより、客足及び売上げが落ちている。	
理容店		4～7月頃は多少景気の良い話もあったが、8月に入って以降悪化した。お盆の一時期を除き全く暇で、9月は更に客足が落ちると思う。		
企業		製造業（食料品）	暑さのため、季節商品の動きは良かったが、売上増には結びついていない。消費動向には拡大の兆しが見えない。	
		製造業（印刷・同関連業）	商品提供から代金支払いまでの期間を延長する顧客が多くなっているため、資金繰りが苦しい。	
		建設業	仕事が少なく、仕事の無い日も多くなってきた。	
		サービス業（広告業）	広告受注の際、同業他社の大幅な値引きが目立ち、受注単価の下落が更に進んでいる。薄利な商売により、同業者の中には、営業所の撤退により営業エリアを縮小したケースが2社あった。	
		サービス業（コンサルタント業）	猛暑で消費が少ない。	
雇用		人材派遣業	お盆時期なので、受注は一段落している。	
悪くなっている	家計	タクシー運転手	売上げ及び乗車回数で比較してみると、3ヶ月前（5/16～6/12：営業日数19日）は、売上げは412千円（21.7千円/日）で、乗車回数241回（12.7回/日）だったが、今回（8/16～9/10：営業日数18日）は、売上げは376千円（20.9千円/日）で、乗車回数216回（12.0回/日）だった。売上げでは8%、乗車回数で10%以上ダウンしている。	
	企業	製造業（窯業・土石製品）	受注量が減少している。また、中国からの仕入れ単価が上がってきている一方、国内での受注金額は低下傾向にある。	

(3) 鹿行地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良い	家計	小売業（書店）	以前と比べ、客の購入時の様子にゆとりが伺える。
	企業	製造業（食料品）	お盆の帰省や夏祭りなどのイベントがあり、猛暑にもかかわらず生産に追われ忙しかった。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	例年夏場に、鹿島臨海工業地帯に所在する企業各社の定期修繕が行われるが、今年は各社の好況を反映してか、民宿やホテル、飲食店等の客足が大幅に伸びたようだ。
		コンビニエンスストア	対応次第で、販売実績の伸長を図ることができている。
		家電販売店	この3ヶ月の売上は、天候に大きく左右された。8月に入り暑さが来て、季節商品が順調に売れた。また、相乗効果でその他の商品の売行きも良好だった。
		衣料品販売店	客数及び客単価が、多少だが増加している。また、今夏は猛暑だったため、商品の回転が良かった。
		洋食食堂	年間を通じて1番の繁忙期である。
		観光型ホテル	予約が若干増加している。
		住宅販売会社	多少、来店客数が増加傾向にある。
	企業	水産業関係者	原油価格の高騰に伴い、仕入や輸送等の関連産業が値上げを始めたことによるコスト増はあるものの、中国製品の消費者離れに伴う需要の増加により、食品工場はフル稼働状態にある。
		製造業（化学工業）	定期修理工事も無事終わり、順調に生産している。売上も上昇傾向である。
		建設業	鹿嶋市では、東京やその他地域からの移住者が増加している。定年退職者や高齢者世帯などが、永住地として移り住んでいるようだ。
		サービス業	お盆前後の受注が好調である。
	雇用	公共職業安定所	求人に対する充足割合は、業種や職種によってまちまちだが、月間有効求職者数は減少している。
		学校就業関係者	ここ数ヶ月の傾向ではないが、学生の求人数が昨年よりも多い。
	変わらない	家計	商店街代表者
スーパー			売上は、3ヶ月前と比較して大きく変わっていない。また、前年同期比でも横這いである。
スーパー			客の様子には変化がない。
スーパー			客の買い物の仕方に変化はない。
コンビニエンスストア			暑さの影響で、多少消費意欲が増したようだが、大筋では3ヶ月前と変わっていない。
自動車販売店			3ヶ月前と同程度だが、前年と比べると販売台数が伸びていない。
小売業（酒類）			ビールや発泡酒の売上は伸びているが、猛暑の影響であり、景気の善し悪しとは関係ないと思う。
日本料理店			忙しい日もあれば、暇な日もあり、平均するとあまり変わっていないと思う。
タクシー運転手			日常的な客層は、通院利用の高齢者が多く、景気に関する話題はあまり出ない。
タクシー運転手			この夏の猛暑で、歩くのを断念し、タクシーを利用した人は多数いたが、その時期を過ぎれば、また春先と同じ状態に戻ると思う。地方のタクシーは、地域住民の足代わりなので、景気が良くなろうと悪くなろうと、利用頻度はあまり変わらない。利用者の状況を見ても、必要な人が必要な時に乗車しているだけである。乗客と話していても、乗客同士の会話を聞いていても、景気が上向いたという話題は出てこない。
タクシー運転手			乗客や商店の様子からは、景気の変化は感じられない。
ドライブイン			この夏の記録的な猛暑は、客足にも影響した。暑さのため、外出を控える人が多かったようだ。但し、売上等概ね例年どおりで、大きな変化はなかった。
観光名所			観光客の消費行動は、従来より慎重かつシビアになっているように思う。
ゴルフ場			プロショップやレストランなどの付帯売上は横這いである。
パチンコ店			来客数、売上ともに、大きな変化は感じられない。
理容店			この時期は、繁忙期のため農家の人達の来店は減少するが、代わりに学生客が増加する。
住宅販売会社	特に景気の変化は感じない。		

(3) 鹿行地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変 わ ら な い	企業	農業関係者	露地栽培の葉物野菜が、高温、日照り、水不足のため不作だったものの、売上げには大きく影響しなかった。
		製造業（食料品）	中元時期を迎えたが、その割には売上増にならなかった。
		製造業（窯業・土石製品）	大手鉄鋼業の設備投資は計画どおり実行され、業績見通しも、内需・輸出とも好調で明るいようだ。不安材料は、原油価格の高騰に伴う燃料コストの負担増だが、自動車向け鋼板についてはコスト転嫁ができており、業況は堅調と見られる。一方、中小規模の運送会社では、仕事の争奪戦が激しく、原油高騰分を価格転嫁することができず、長距離の仕事を受注する程、利益が薄く厳しい状況にあると聞く。景気の良い業種もあるが、依然として、底辺の景気までは良くなっていないと思われる。
		製造業（鉄鋼業）	周囲の会社でも設備投資が活発に行なわれており、景気の良い状態が続いている。
		運輸業（道路貨物運送業）	季節的な貨物の動きはあるものの、全体的には変わらない。顧客の中には、新規事業を立ち上げたところもあり、実質的な動きが出てきている。秋口からの貨物の動向が気になるようだ。
		運輸業（道路貨物運送業）	製鉄所の生産状況が変わらないため、出荷状況も一定のペースで推移している。鉄以外の業種も同様である。
		金融業	取引先の主体は中小零細企業だが、3ヶ月前と比較して変化は見られない。
		保険業	変化のない状態が続いている。
		不動産業	中古住宅及び土地の需要に変化はない。また、近隣の大型店舗への入店状況も変わらないようだ。
	雇 用	人材派遣業	3ヶ月前と変わらず、コンビナート全体が活況を呈している。20～30歳代の人材が不足しており、人材派遣会社が揃って、人材の発掘に四苦八苦している状況である。
民間職業紹介業		新規登録者の減少が響き、求人企業の対するマッチングがなかなか思うようにいかない。	
求人開拓員		中小企業では、採用が一層難しくなっているが、大手企業と同等レベルまで、採用条件を改善する余裕はない。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	鹿行地域は、県内屈指の穀倉地帯であり、農水産物の出来・取れ高が地域景気に深く関係している。まず米については、全農の内金・追加支払方式による概算価格が7千円と低落し、農家では採算割れの状態である。さつまいもは、昨年九州地方の不作に伴い相場が良かったものの、今年は一転安値が続いている。また漁業も、燃料価格の値上がりと不漁のため、景気が良くないようだ。霞ヶ浦や北浦も、環境悪化により、アメリカ鱈やブルーギルなどの外来魚が増殖し、肝心のワカサギやシラウオなどは激減したままの状態である。
		小売業（菓子販売店）	猛暑の影響で、例年より客足が伸びなかった。
		小売業（薬品店）	中国製の食品や加工原料から有害物質が相次いで発見されているが、消費者の不安感を反映し、健康食品や漢方薬の売上げが落ち込んでいる。
		小売業（金物店）	現場関係の仕事が少なくなってきた。市町村からの仕事が減っているにも関わらず、建設関係の業者は多いため、なかなか受注が取れない。受注できても利益が出せないため、廃業や倒産に追い込まれる状況にあるようだ。
		割烹料理店	例年、9～10月は売上げが落ち込む。今年も、今のところ客足は思わしくない。
		タクシー運転手	営業回数や売上げは、やや減少傾向にある。
		パチンコ店	稼働率が落ちている。
		クリーニング店	周辺農家の話では、今年の夏は猛暑だったため、野菜や米の出来が悪いらしい。水不足で、種を蒔いても芽が出ない、育たない作物が多かったようだ。また、収穫時期を迎えたタバコの葉も、6～7月頃に降ったヒョウにやられてしまい、品質が悪くないという。サツマイモや米の値段も安いようで、農家の懐具合は厳しいようだ。
		室内装飾業	正月早々に受注があったものの、5月の連休以降、受注は減少し続けている。
企業	製造業（飼料）	飼料価格は、4四半期連続で値上げされている。一方で、末端畜産製品の値上げ要求が通らず、資金的に窮屈な状況に追い込まれた畜産業者が増加している。この状況が続けば、畜産業界の業況はかなり悪化することが予想される。	
	製造業（印刷・同関連業）	これまでは受注額の微増が続いていたが、少し減少し始めた。	
	製造業（化学工業）	製品需要は活発で、フル操業が続いているが、長引く原油価格の高騰によるコスト高が、利益面に影を落とし始めている。	
悪	家計	観光型ホテル	利用者数が減少しているうえ、利用者の消費単価も減少している。

(4) 県南地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計	スーパー	レジ担当によると、高額商品を購入する主婦が多くなっているとのこと。また、生鮮担当によると、飲食関係業者の買上げ点数が上がっているらしい。
		美容室	夏祭りや花火大会など、お盆関係のイベントが多数あり、土浦市内もかなりの人で賑わった。数年前から、祭り用の髪結いや浴衣の着付など、夏イベント向けのプランを実施している。祭りの集合時間に合わせて、早朝営業をする等、客の利便性を向上させるよう努力している。結果として、今年も多くの人に利用してもらうことができた。
	企業	製造業（食料品）	お盆の時期には、客数や客単価が多少増加した。
	雇用	公共職業安定所	求職者が少なく、求人が増加している。
やや良くなっている	家計	スーパー	客数、客単価とも増え、順調に売上げを伸ばしている。
		洋食食堂	ようやく涼しくなり、食欲が沸く季節になったので、売上げ等も徐々に良くなっている。
		都市型ホテル	地球温暖化の影響で、かなり暑い日が続いたが、これに伴いビアガーデンの集客が伸び、客単価も上がった。また、景気の回復感からか、消費者の財布のヒモも緩くなった気がする。
		都市型ホテル	少しずつではあるが、宿泊及び宴会の利用客数が増加している。
		旅行代理店	1泊2日のツアー客が増加している。
		タクシー運転手	夜の利用客の動きが良くなっている。
		タクシー運転手	特に夜間のタクシーの動きが良くなった。
		ゴルフ場	8月の来場者数は前年並みであったが、9月は前年比で800名程増加する見込みとなっており、良い方向へ向かっていると思う。
	住宅販売会社	イベントの効果もあるが、来場者数が増加している。	
雇用	人材派遣業	派遣から自社雇用での労働力確保に移行する企業が多くなってきた。各企業が、それなりの体力を持ってきたのだと思う。	
変わらない	家計	商店街代表者	当店ではパンを取り扱っているが、今のところ景気の影響はないようだ。
		スーパー	客単価が変動していない。
		スーパー	客の買上点数及び単価に変化はない。
		コンビニエンスストア	猛暑のため、ドリンクやアイスクリームの売上げは例年より伸びたものの、家計で消費に回る金は限られているので、所得が増えない限り、消費額は大きく変わらない。
		コンビニエンスストア	客数や客単価に大きな変化はない。
		衣料品販売店	9月に入っても残暑が続き、夏物処分は順調だが、秋物がほとんど動かず苦戦している。
		専門スーパー	近隣の住宅着工件数が伸び、新規分譲マンションは短期で完売している。一方、客の購入商品は生活必需品が主力でベーシックなものが多いため、売上げは価格に左右されているように思う。また、猛暑のため、季節品の販売数は伸びているものの、定番品の販売数はそれほど伸びていない。
		和食食堂	年金問題など、先の見えない問題が山積しており、客の様子からは、消費を控えている印象を受ける。また、客層が、お金の有る人と無い人に二極化しているように見える。
		寿司店	客との会話の中でも、景気回復の実感がないという声がほとんどである。
		旅行代理店	落ち着いている感じがする。
		ゴルフ場	猛暑のため、来場者数に陰りがあったが、概して平均的な営業に推移できたと思う。
建築設計事務所	景気が良くなった、悪くなったという話題は、普段の仕事や客との会話に出てこない。		

(4) 県南地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変わらない	企業	製造業（印刷・同関連業）	大企業の業績は良くなっているが、中小企業の営業成績は以前とあまり変わらない。
		製造業（窯業・土石製品）	大きな変化はないが、原油を始めとして、原材料価格が高止まりしているため、今後の動向が気にかかる。
		製造業（一般機械器具）	これといった変化を感じない。
		運輸業（道路貨物運送業）	季節商品の動きは活発だが、例年と同じような傾向で推移している。
		金融業	不動産売買や業務請負、人材派遣業等は、活発に推移している。一方、土木建築業や関連設備工事業等は、相変わらず受注不足、採算割れに悩まされている。業種別にバラツキがあり、全体として良くなったと感じる材料に乏しい。
雇用	学校就業関係者	特に目立った変化は感じなかった。	
	雇用相談員	社会全体としての好況感が感じにくい。大企業は、増産や設備投資に動いているが、末端の企業まではその恩恵が波及していない。そればかりか、コスト削減や原材料価格の高騰により、四苦八苦しているという声が聞かれる。	
やや悪くなっている	家計	家電販売店	夏物家電の販売実績が落ち着いてきた。また、大物商品の買い控え傾向が目立ち、客単価の不振が続いている。
		農産物直売所	猛暑の影響で、来店客数、客単価が減少した。また、野菜類をまとめ買いする客も少なくなった。
		農産物直売所	来店客数及び売上げが減少した。3ヶ月前と比べても、前年同期と比べても下回っている。
		ガソリンスタンド	土浦市内でも、セルフサービスのガソリンスタンドが相次いでオープンしている。
		タクシー運転手	個人客の様子を見ていると、我慢・節約ムードが、以前より更に浸透している気がする。
		ゲームセンター	3ヶ月前と比べれば売上げは20%増だが、前年同月比では、集客数が15%減少している。人気機種を導入し、イベントを開催し、キャンペーンも行っているが、売上げも前年を下回ってしまった。
		レジャー施設	当会社で経営していたホテルが閉鎖されたため、レジャー施設への客の流れが少なくなった。
	企業	農業関係者	米の収穫が始まった。概算価格が著しく低く、農業関係者には諦めムードが漂っている。このまま営農を続けられるかという将来への不安や、農政は切り捨てられているという行政への不満も鬱積している。
		製造業（食料品）	夏季商戦では前年並みの売上げが確保できたが、配送コストと加工費が予想以上にかかり、経営を圧迫している。商品の販売数や企業の販売力自体は大きく変わっていないものの、原材料費や運送経費の増加により、利益確保が非常に難しい状況である。
		製造業（食料品）	3ヶ月前は、中元ギフトシーズンで受注も多かったため、前期比では売上げ減である。但し、前年同期との比較では、売上げに大きな変化はない。
製造業（食料品）		猛暑の影響で、食品の荷動きがやや落ちている。また、株式市場が低迷しており、消費にも停滞感が感じられる。	
製造業（非鉄金属）		受注が、前年比で10%程度減少している。また、アルミ素材の仕入価格は高値で安定しているうえ、ガスや電気等の料金も上昇傾向が続いている。収益状況はかなり厳しい。	
建設業		引合いがあり、現場説明も終了した後、相手方の事情により契約が取り消しとなったケースが、8月だけで2件あった。これは今迄にない現象である。8月は、注文も契約も非常に少なかった。	
建設業		受注が少なく、売上げも減少している。	
建設業（設備工事業）		景気の冷え込みと関係があるのか、修理工事をして、すんなりと集金できない。	
不動産業	建売りや分譲マンションは、供給過剰である。客は様子見の状態であり、取引がやや減少している。また、賃貸も同様に停滞気味である。多少は季節要因もあると思われるが、全体的に不動産取引は一服した感がある。		
悪	家計	洋食食堂	とにかく来客数が減少した。特に8月は、例年と比較しても最低の状況だった。

(5) 県西地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	家計	家電販売店	夏の需要が遅れてきたこともあるが、全体的に高付加価値の商品が多く成約できている。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	現時点では、注文を受けるのを少し控えたくらい受注がある。納期が短く、数量の多い仕事ばかりなので、非常に忙しい。
やや良くなっている	家計	旅行代理店	9月は、運動会や稲刈りがあり、比較的旅行需要の少ない月だが、昨年の秋以降、団体客の利用が順調である。
		建築設計事務所	仕事の問合せの電話が、多少増えてきている。
	企業	農業関係者	8/11～8/16の6日間、農産物直売所前の国道294号は、ひととき交通量が多かった。県外ナンバーの車の多くが直売所に立ち寄ったため、客数も売上げもかなり伸びた。
		製造業（食料品）	中国産食品の安全性に疑問が生じていることもあり、食品は国内回帰が進んでいる。特に、業務用商品は、価格より安全性を重視する取引先が増えてきている。
		製造業（化学工業）	顧客からの先行受注（先納期受注）が増加している。特に、台湾顧客向けの半導体材料の受注の伸びが堅調である。
		製造業（電気機械器具）	各職場から、増員希望の声が出ている。
	不動産業	高額物件の取引が増加傾向にある。	
雇用	公共職業安定所	新規求職者数が多少増加しているものの、依然として新規求人数は伸びている。	
変 わ ら な い	家計	スーパー	客数や売上の動向に、大きな変化は見られない。前年比でも同程度である。
		スーパー	購買点数や売上げに変化がない。
		スーパー	相変わらず、消費者の財布のヒモは固い。本当に欲しいものしか買わない。先行きへの不安感から発した防衛策なのだろうか。
		コンビニエンスストア	キャンペーンやセール期間であっても、本当に必要と感じる商品のみを購入する、無駄な買い物はしないようにする、という姿勢は、3ヶ月前と変わっていない。
		コンビニエンスストア	来店客数は、昨年よりも増加しているが、客単価が落ちており、売上げとして伸びてはいない。
		農産物直売所	客数・客単価・買上点数ともに横這い傾向である。
		専門スーパー	夏物シーズン商品の売行きは好調だったが、その他の商品は前年より不振だった。
		和食食堂	夏の暑い間は忙しかったが、9月に入り、涼しくなったことに加え、台風等の悪天候も重なり、売上げが若干落ちている。
		和食食堂	客数も売上げも、3ヶ月前とそれほど変わらない。
		和食レストラン、割烹	政治の不安定さが影響して、景気の好転は期待できないと思う。
		タクシー運転手	当社ドライバーの平均売上げは、3ヶ月前と比較して大きな増減はない。
		ドライブイン	実感として、良くなっているようには感じられない。
		ゴルフ場	予約状況から判断して、3ヶ月前と変わっていない。
		理容店	客との会話の内容にあまり変化はない。
		理・美容店	客の来店サイクルが変わっていない。
住宅販売会社	金利の上昇など、住宅取得にはまだ不安要素もある。		
企業	製造業（一般機械器具）	自動車関係の仕事は、常に一定の受注があるものの納期が短い。菓子関係の仕事は、受注自体が少ない。先日、至急の仕事が入った会社からは、納品して3ヶ月経っても、改造部品の発注がくる。	
	金融業	8月の猛暑により、一部の業界では、衣料品や夏物商品等の売上げが増加したが、一時的なものであり、全体としては景気回復の実感はない。	

(5) 県西地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変わらない	企業	サービス業（広告業）	今まで遅れていた分の仕事が入ってきたので、多少忙しくなってきたが、依然として仕事の無い部署もあり、会社全体ではあまり変わらない。
		サービス業（コンサルタント業）	景気が悪い中、何とかやっているというのが企業の現状だと思う。
	雇用	人材派遣業	受注が増えていない。
学校就業関係者		4月以降、求人募集の状況は前年同期より良好だが、3ヶ月前と比較すると募集人員数等に大きな変化はない。	
就職相談員		求人数・求職数に変化はない。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	6月下旬、隣接する守谷市に、ロックシティ守谷ショッピングセンターがオープンした影響で、商店街への来街者は更に減少した。
		自動車販売店	新車の販売台数が減少している。
		和食食堂	客単価は変わらないが、来客数が減少している。
		都市型ホテル	客単価が減少している。
		都市型ホテル	お盆や夏季休暇等により、ビジネス関係の利用が減少している。
		タクシー運転手	暑い日は利用客が多いが、涼しい日が続くと利用客が減少する。また、お盆を境に売上げが落ち込んでいる。
		タクシー運転手	ビジネス関係の客が、以前よりやや減少している。地元の買物客など、昼間の利用者も減っている。また、居酒屋の客など、夜間の利用者もやや減少している。この傾向は、猛暑等による一時的な影響なのか、景気自体が悪化しているのか、判断は難しいが、いずれにしろ、上向きの要素は感じられない。
		ドライブイン	土産売場のレジ通過人数が減少している。
		ゴルフ場	サブプライム問題や原油高の影響で、景気回復は小休止といったところだと思う。ゴルフ場の予約状況も、かつての勢いは衰え気味である。
		ゲームセンター	例年であれば、夏休みに売上げが伸びるのだが、今年はお盆期間以外は、客数も客単価も伸びが見られなかった。新規客が若干増加している一方で、常連客の来店頻度が以前より落ちていることが一因と考えられる。
		レジャー施設	8月は家族連れや夏合宿等の利用が多く、賑わいを見せたが、7月と9月は来客数が伸び悩んでいる。
		クリーニング店	長雨の後の猛暑だったため、冬物から夏物まで、まとまった注文が来るかと思っただけで、予想した程ではなかった。クリーニング代を節約して、家庭で処理する人が増えているようだ。
企業	農業関係者	住民税の引き上げや物価上昇など、生活に必要な経費が増える一方なので、消費について慎重になっている印象がある。購買意欲も落ちてきているのではないかと。	
	製造業（印刷・関連産業）	紙やインク等の材料値上がり分を、製品価格に転嫁できていないため、収益が圧迫されている。	
	製造業（金属製品）	継続生産品の需要に停滞感がある。	
	建設業	原油価格の高騰に伴う材料費の値上がり分を、販売価格に転嫁できない状況である。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	3ヶ月前に比べ客単価が落ちてきた。
		衣料品販売店	8月中旬以降、急激に業績が悪化している。猛暑の名残りが客足を遠ざけているようだ。
		タクシー運転手	夜間の代行車が増加しているため、タクシーの乗客数は減少している。
		パチンコ店	1円パチンコの効果により、客数が伸びている店舗もあるが、パチンコ業界全体で見れば、従来の4円ユーザーやスロット客の減少傾向に歯止めはかかっている。競争が激化するにつれ、各店舗の負担は増加傾向にある。業界内でも、勝ち組と負け組の差ははっきりしてきたようだ。
企業	製造業（窯業・土石製品）	当社が所在する町には石材業者が多く、「石の町」と称されることもある。石材業者の動きで町が変わるとも言われているが、今年に入ってから、動きが鈍化しており、6～7月の最盛期も全く期待外れだった。墓石や石灯籠など石材製品の建て控え傾向があるようで、客足が今までになく落ちている。	

Ⅲ 景気の判断理由 — 2 景気の先行き判断理由

(1) 県北地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	家計	観光型ホテル	11月は紅葉の見頃真っ只中であり、観光客の来訪が期待できる。また、ぼちぼちと忘年会の間合せも来ているので、12月もかなり期待できると思う。
やや よ く な っ て い る	家計	スーパー	悪化する要因が思い当たらないため、この先も上向きで推移するのではないかと。
		衣料品販売店	客数の増加傾向は引き続き継続すると見込まれる。また、商品が冬物になり、客単価も上がる。
		居酒屋	忘年会等による利用客増を期待している。
		スナック	忘年会シーズンであり、ボーナスも出るので、多少は良くなると思う。
		和食食堂	近所の企業は、年末の納期が近づく10～11月頃には、休日返上で製造にあたるらしい。職員の出勤日数が増えれば、店の売上げも連動して伸びると思う。
		観光型ホテル	年末の宿泊、宴会の間合せが増えてきている。
		タクシー運転手	年末に向けて売上げ増に期待したい。
		タクシー運転手	3ヶ月後の12月は、冬のボーナスが出るうえ、忘年会シーズンでもあるので、多少営業収入も良くなると思う。
		タクシー運転手	10～12月は、地元大企業が通常操業に戻るため、夏場に比べれば利用者が増加すると思う。
		ゴルフ場	3ヶ月先の予約状況も、大きなコンペが入り順調である。また、予約を入れる時期が枠取りの関係から早くなっており、コンペ受付時の社名使用も増えている。
ゲームセンター	売上げを伸ばすためには、平日の顧客を如何に増やすかが重要だと思ふ。今後、更に良くなるよう、集客努力をしていきたい。		
理容店	年末は1年間で最も忙しい時期である。		
美容室	周囲の情勢に左右される業種なので、七五三などのイベントや冬のボーナス等により、現状よりはやや良くなると思う。		
良	企業	林業関係者	暑い夏が終わり、いよいよ間伐の時期に入る。間伐補助金等により、森林整備が行なわれることにより、人・物の動きが活発になることが期待される。
		製造業（電気機械器具）	来年の3月まで受注案件がある。
		製造業（電気機械器具）	海外への医療用製品の出荷が好調に推移しているため、作業量は高止まりすると見込んでいる。
		建設業	顧客の投資意欲は上昇傾向にある。また、企業間競争に生き残った会社は、更に良くなると思う。
雇用	公共職業安定所	今まで求人申込みのなかった小規模事業所等から、求人の申込みが来るようになった。管内主要企業の一部では、雇用人員に過剰感を持っているものの、人員不足と感じている企業が僅かに増加している。	
変 わ ら な い	家計	スーパー	周辺に競合店が出店したことにより、消費者がいろんな店で買い回りするようになった。今のところ、売上げは横這いだが、販売点数は落ちている。この傾向は、今後もスーパー業界では続くと思込まれる。
		コンビニエンスストア	回復へと変わるきっかけが見当たらない。
		コンビニエンスストア	最低賃金の改正など、消費行動に繋がる要素はある。現在の回復傾向はこの先も続くのではないかと。
		衣料品販売店	周辺店舗の廃業が相次ぎ、通行人や車の往来が著しく減少しているものの、売上げには変化はないと思われる。
		農産物直売所	行楽シーズンが終了し、来客数が横這いになると思われる。
		ガソリンスタンド	悪い状況のまま変わらないと思う。
		小売業（水産物）	日々の食料品を購入するだけで、余分な買物は控える、という購買傾向は、今後も続くと思われる。
		小売業（靴製品）	特に変化する要素は見出せない。
		レストラン	良くなることを祈りつつ仕事をしているが、現在の様子から見て、大きく変化するとは思えない。
		旅行代理店	今後も客単価の上昇が期待できない。

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	タクシー運転手	年末にかけて多少の動きはあると思うが、今年も例年どおりで、大きな期待はできないのではないか。
		ドライブイン	夏の暑さと同程度に冬の寒さが厳しければ、温泉・スキー・滝の凍結など、行楽客を多数呼べそうだが、暖冬の予測もあり、何とも言い難い。
		レジャー施設	滞在時間はやや伸びているものの、客単価は伸びていない。この現状を、改善する要素も悪化させる要素も見当たらないので、当面景気に変化はないと思う。
		住宅販売会社	まだ変化はないと思う。
	企業	水産業関係者	シラスの漁獲量が悪化しており、沿岸船の先行きが不透明だが、景気の動向は変わらないと思う。
		製造業（食料品）	原材料価格の高騰に対処するため、製造コストの低減や経費削減の努力をしているが、原材料以外の消耗品等についても値上げの話が出ており、一層の収益悪化を懸念している。
		製造業（一般機械器具）	急に好転するとは思えない。
		製造業（電気機械器具）	3ヶ月後も大きな変化はないと思う。
		製造業（電気機械器具）	大型コンピュータや半導体関連の取引先からは、引き続き堅調に推移するとの見通しが伝えられている。このことから、現状と変わらないか、或いはやや良くなる可能性もあるかもしれない。
		製造業（電気機械器具）	3ヶ月先も、それ程状況が変わるとは思えない。製造業だけでなく、建設業も収益が圧迫されて大変のようだ。
		製造業（電気機械器具）	生産計画は、上期に比べ下期の方が受注は増える予定だが、材料費の高騰がそれ以上に業績を圧迫すると予想される。
		建設業	県南地域と県北地域に地域間格差がある。県北でも、中小企業や商工業の業況が回復しなければ、地域の景気も変わらないのではないか。
		情報通信業（情報サービス業）	これ以上、良くなる要素は見当たらない。
		金融業	県北地区は、地元の大手企業の影響が大きいため、当該企業の業況に変化がなければ、地域景気も変わらないと思う。
	不動産業	市街地でのマンションは、供給過剰状態であり、今後も販売状況は好転しないものと思われる。	
	雇用	人材派遣業	企業の設備増強等により、人材は不足気味なので、今後も変わらず派遣依頼は来ると見込まれる。
		求人広告	人口の増加や社会情勢の変化など、将来的に景気が良くなる要因がないので、今の段階では大きな変化はないと思う。
		学校就業関係者	企業からの求人は、現在がピークであると考えられる。
		求人開拓員	地元の大手製造メーカーでは、重電機器（タービン）部門の受注が好調である。但し、これが地元景気に反映されるのは、1～2年後になるらしい。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	近くに大型食料品店が出店する計画があり、来街者が更に減少するのではないかと心配している。
		スーパー	社会情勢が不安定なままでは、景気は好転しない。特に、地方の景気は益々悪くなっている。
		家電販売店	家電製品の価格が下落傾向にあることに加え、イベントも不足する時期なので、売上はやや悪化すると思う。
		小売業（酒類）	近所に大型スーパーやドラッグストアが出店した。これに対抗するため、品揃えを専門店化させ、商品管理や酒類知識の習得に努力してきたが、来店客数は年々減少している。3ヶ月という短期間では明るい展望は見えないが、これからも消費者の選択の動向を注視していきたい。
		レジャー施設	売上げが増加する要因が、全く見当たらない。
企業	製造業（電気機械器具）	原子力関連業界とも取引があるので、柏崎刈羽原子力発電所の運転停止による影響は受けると思う。	
	製造業（輸送用機械器具）	原材料価格の高止まりも、値上がり分の価格転嫁が困難な状況も当面の間継続すると予想される。これに加え、カーメーカーの国内販売不振や新潟県中越沖地震が、今後の生産計画にどう影響してくるか心配している。	
悪	家計	パチンコ店	現状を見ていると、今後は益々悪化するような気がする。
		クリーニング店	石油関連商品の値上がりによって、仕入経費が増加し、利益が減少してしまう。

(2) 県央地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良	家計	タクシー運転手	年末に入り、商店街も忙しくなると思う。忘年会等で飲食店街も賑わうようになるのではないかと。
	企業	製造業(精密機械器具)	工場内や現場に設置する製品の引き合いは相変わらず続いており、設備投資意欲は今のところ衰えていないと思う。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	平成17年10月に閉鎖した旧ダイエー水戸店の跡地ビルが、10月中旬より「MIMO(ミーモ)」としてリニューアルオープンする。食料品や衣料品関係のテナントが入居するので、今まで郊外へ流れていた買物客が戻ってくると思う。新名称に込められた意味どおり、水戸(MITO)をもっと(MOTTO)好きになってもらい、これを呼び水として、商店街全体に賑わいが戻ることを期待している。
		都市型ホテル	忘年会やクリスマス等の行事が増え、消費行動が上向きに転じることが予想される。
		観光名所	秋に向けて、イベント等も多数開催予定であり、徐々に予約も増加してきている。
		レジャー施設	車両調査において、他県ナンバーの車両が増加している。安・近・短のレジャー傾向に変化が出てきたようだ。この傾向が続けば、売上等もやや良くなるように思われる。景気回復の兆しを若干だが感じる。また、イベント等の問合せが多い。来場者(リピーター)は、通常営業とは違うものを期待していることが伺える。これに添えて、秋から冬にかけてのイベントを企画し、入場者増を狙いたい。
	企業	製造業(食料品)	お歳暮やクリスマスケーキ、帰省客の土産物等に期待したい。
		不動産業	当店では変化が見られないものの、水戸市内に所在する他店舗を含めた会社全体では、来客数が増加傾向にあるので、今後水戸市を中心に、不動産取引は活発になるのではないかと。
	雇用	人材派遣業	年末に向かい、一時的なものも含め、需要は多くなる。また、決算期を迎える会社もあるため、人材派遣の利用は増加が見込まれる。
		求人広告	雇用は、少しずつ増加傾向にあるようだ。
		公共職業安定所	10月頃、旧ダイエー水戸店跡地ビルのリニューアルオープンに際し、食料品店や衣料品店が出店するため、これに伴う雇用増が見込まれる。
		求人開拓員	常陸那珂港湾地区に進出した企業の生産活動が活発になっており、これからの発展が期待できる。
変わらな	家計	百貨店、総合スーパー	雇用や所得が改善する一方で、税負担は増えている。近々利上げも想定される状況下では、今後の消費拡大にはあまり期待できない。
		百貨店、総合スーパー	気候や気温の変化で消費動向は変わる。以前のような季節先取りの買物はしなくなっている。
		スーパー	報道などでは、景気は良くなっていると云うが、買物の量を見る限り、消費者の懐に余裕はなさそうである。先行きが不透明なため、無駄遣いしている気持ちの余裕がないのかもしれない。
		スーパー	採用活動の厳しさは、今後も変わらないと思う。
		スーパー	周辺では、景況が大きく変化する要因は見当たらない。
		自動車販売店	年末に向かい、ボーナスの支給状況等が気になるが、スーパーや百貨店等に集客され、自動車販売に関しては、全体的に厳しい気がする。今年の夏は、天候の影響で、家電業界が順調だったようだが、冬はどうなるのだろうか。
		専門スーパー	日用品や消耗品も、原油高に伴い値上がりしているため、客の購買傾向からは、全体的に消費を切り詰めている様子が伺える。また、冬場の灯油消費が多い地域なので、現状(72~75円/リットル)以上に値上がりすると、冬に向かって景気に影響が出てくるかもしれない。
		レストラン	景気回復を期待できる要因がない。このまま景況に変化はないと思う。
		割烹料理店	景気は上向きだと報道されているが、地方ではその兆しすら見えてこない。外資系企業はいくらか良くなっているようだが、少なくとも、地方の外食産業では以前と変わりはない。
		観光型ホテル	旅行需要は依然として強いものの、団塊世代は、回数を増やすために低額なプランを求めることが多く、全体として総消費額はあまり変わらない。
	タクシー運転手	忘年会等により、一時的な売上げ増は期待できるが、その前後は変化はないと思う。	
	タクシー運転手	乗客の話を聞いていても、短期間での変化はなさそうなので、売上げ増は期待できないと思う。	
	ドライブイン	現在の状況が好転するとは思えない。	
	ゴルフ場	12月初旬くらいまでは、オンシーズンと考えられているため、予約申込みは減少せず、上半期と同程度で推移すると思われる。	
レジャー施設	昨年のように爆弾低気圧が発生しなければ、平年並みの出足が期待できる。		

(2) 県央地域 【先行き】

(一：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	美容室	年末に向けて、現在と同じくらい忙しくなると思う。
		理容店	3ヶ月後も景気が悪いままだと思う。
		建築設計事務所	3ヶ月程度のスパンでは、動きがないと思う。
		住宅販売会社	様子見の客が多数いる。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	特に目立った要素は見当たらない。
		製造業（窯業・土石製品）	悪いままで変わらないと思う。
		製造業（一般機械器具）	円高と株価の落ち込みが気に掛かる。現在輸出が好調な建機部門にどのような影響が出るか心配している。
		運輸業（道路貨物運送業）	原材料の値上げが、製品の価格アップになかなか反映しづらいと思う。
	雇用	情報通信業（情報サービス業）	円高や株価低迷等の動きが、市場や消費者に対して心理的不安要素となり、企業の設備投資や個人消費にまで影響を与えることが懸念される。しかし、長期間続いた根強い回復基調が今すぐ反転するとは考えられず、暫くは現状維持で推移するものと思われる。
		学校就業関係者	最近、アメリカの住宅問題を契機として株価が急落した。このような不安要素は依然として存在するが、秋の採用活動を控える、もしくは縮小するといった企業の情報は、現時点では皆無である。内閣改造を受けて、少なくとも年内は現在の景気が急落するとは思えない。
や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	原材料価格の高騰に伴う、商品の値上げ傾向により、今後消費は冷え込むのではないかと。
		コンビニエンスストア	個人消費が落ち込んでいるため、先行きはやや悪くなるのではないかと。
		家電販売店	株価の低迷と政局の混乱が落ち着くまでは、景気の回復は見込めないのではないかと。
		レストラン	食材の値上りに対して、料金への転嫁もできず、苦勞している。
		ファミリーレストラン	夏休みが終了し、これからは客足が落ちる時期なので、良くなっているとは考えられない。
		都市型ホテル	秋の宴会及び忘年会の予約件数が、昨年より少ない。
		旅行代理店	夏休みの旅行が、期待していた程伸びず、9月から年末までの5回の3連休に、需要拡大を期待しているが、申込時期が遅くなる傾向があり、販売見込みが立てづらい。期限間近に申込みが増加しているのは、消費者の購買力が、横這いからやや悪くなっているためなのかもしれない。
		ドライブイン	忘年会シーズンに入っても、飲酒運転の罰則強化の影響により、前年並みは見込めないと思う。
	ゲームセンター	1人あたりの使用金額は変わっていないが、当店ではなく、他店に流れているようだ。	
企業	製造業（食料品）	先行きへの不安感からか、消費者の財布のヒモは固いと感じる。	
	製造業（印刷・同関連業）	原材料費（用紙代）は10%上がったが、この値上がり分を製品価格へ転嫁できていない。	
	製造業（金属製品）	耐震偽装事件に端を発した改正建築基準法が、今年6月20日から施行されたが、「完全な設計図書の作成」が要求されることになったため、確認申請が大幅に遅れている。今年の年末から来年始めにかけて、仕事がストップする懸念がある。	
	建設業	今後、仕事が増える要因がない。その上最近、住民の立ち退き後、家が解体され、売地の看板が出ている土地が、近所で多数見受けられる。住民の減少により、需要が更に減ってしまい、3ヵ月後の景気は益々悪くなるのではないかと。	
	金融業	経験則から言っても、8月以降の株価が上昇傾向の時は好景気に向かうと予想されるが、現在の下降傾向を見ると、景気もやや悪くなっていくのではという懸念がある。	
	サービス業（広告業）	年末商戦への広告営業が始まったが、ロットや仕様の拡大傾向はなく、低価格で仕事を取り合う図式が既に見受けられる。顧客である小売業で大きな売上拡大が期待できない以上、厳しい受注合戦になると予想される。	
	サービス業（コンサルタント業）	円高・株安により、投資環境が悪化している。消費マネーの先細りが懸念される。	
悪 く	家計	農産物直売所	来店客の商品購入数が減少している。この傾向が、好転する要因は見当たらない。むしろ、益々悪化するのではないかと。
		タクシー運転手	改善する要素が見当たらない。乗客との会話でも、景気の良い話は聞かえてこない。

(3) 鹿行地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	家計	割烹料理店	忘年会シーズンに入るので、忙しくなると思う。
やや良くなっている	家計	小売業（書店）	クリスマス時期を迎えるので、現状よりはやや良くなると思う。
		日本料理店	これから段々と寒くなり、鍋物のシーズンが到来すると、今までより飲食店を利用する機会が増えると思うので、客数増を期待している。
		観光型ホテル	予約状況から判断して、年末に向け少し良くなると思う。
		タクシー運転手	涼しくなると利用客は減るが、3ヶ月という期間を考えると、年末需要もあり、若干は良くなると思う。鹿嶋市内は、新規の住宅建築も盛んで、将来的には僅かながらでも人口増が見込まれる。これから、大企業・中小・零細・下請けへと、緩やかに景気回復の波が及んでいくのではないかと。
		タクシー運転手	12月は、冬のボーナスや忘年会の時期なので、売上げも多少良くなるかもしれない。
		観光名所	周辺の農家では、収穫と収入の状況から、やや上向いているように見える。
		理容店	冬に向かうに連れて、暖房家電などに対しては、購買意欲が活発になるのではないかと。
	企業	農業関係者	年末の需要が期待できる。
		水産業関係者	主要魚種であるサバやサンマが、これから冬にかけて本格的な漁期となるため、扱い高、売上げとも上昇する見込みである。
		製造業（食料品）	時期的に売上げ増が見込まれる。
		製造業（食料品）	暑さは職种的には有り難くない。これから季節的には段々好ましい時期になってくるので、売上げ増に期待したい。
		建設業	住宅地の分譲が盛んに行なわれているので、今後住宅建設の需要増が期待できる。
		運輸業（道路貨物運送業）	10～12月は、製鉄所の生産・出荷量が上昇する時期である。また、年末に向けて、人も荷物も動きが活発になると思う。
		サービス業	大きな引合いがあり、今後更に受注拡大の動きがある。
雇用	公共職業安定所	製造業、特に機械工業の求人が増えている。新規卒求人数も、対前年比で1割以上の増である。	
変わらな	家計	商店街代表者	収益を上げる特効薬はない。景気回復の恩恵は、零細事業所には無縁であり、厳しい経営状態は今後も続くと思われる。
		商店街代表者	夏場は企業の定期修繕絡みで、地元の商店はかなり潤ったが、この状態がこの先3ヶ月も持続するかどうかは何とも言えない。
		スーパー	今後も客の様子に大きな変化はないと思う。
		コンビニエンスストア	興味のあるもの以外への支出は抑えられている。将来に対する不安から、無駄遣いはしないと思う。
		コンビニエンスストア	夏場に行楽などでお金を使っているため、秋以降は財布のヒモが固くなり、コンビニでの買い物は控える傾向が続くのではないかと。
		家電販売店	秋に向け、各社の新製品が出揃うので、売行きを見守りたい。
		小売業（酒類）	良くなる要因も、悪くなる要因も思い当たらない。
		小売業（金物店）	企業では、設備投資も一段落し、仕事は設備の保全くらいで、目新しい動きはない。市町村関係の仕事の割合も少なくなり、この先、好転する望みは薄い。
		衣料品販売店	衣・食・住の中で、優先順位として「衣」は後回しになりがちだと思う。年金問題や雇用問題など、将来への不安要素が多い生活の中では、消費意欲も必要最低限に止まってしまうと思う。
		洋食食堂	来客数が堅調なので、今後も売上げ等に大きな変化はないと思う。
		タクシー運転手	大手チェーン店が続々と開店する一方で、個人営業の店は次々と店仕舞っている。地域の中でも差はあるが、全体としての景況は変わらないのではないかと。
ドライブイン	今後も、この夏の記録的猛暑のように、地球温暖化の影響が日常生活に大きく関わってくる可能性はあり、不安感は否めない。また、原油高も依然として解消されないため、この先景気が大きく好転することは考え難いと思う。		

(3) 鹿行地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	ゴルフ場	ゴルフに適した季節となるので、入場者数は現在より増加すると思うが、売店やレストランなどの付帯売上げの伸びは期待できない。
		パチンコ店	短期的には、大きな変化はないと思う。
		クリーニング店	客数・売上げともに変化がないと思う。
		住宅販売会社	消費税の動向によって左右されるので、まだ不透明な要素が強い。
		住宅販売会社	住宅取得について後押しとなる政策もないうえに、住民税が増税となり、建て替えやマイホーム取得を見送りたいという声も出ている。
	企業	製造業（化学工業）	当面は現状維持だと思う。
		製造業（窯業・土石製品）	政治混乱や年金問題等により、国民の不安が高まる中、株価の値下がりや円高傾向が加わり、今後様々な方面に影響が出てくるのではないかと。但し、影響が出るのは先の話で、3ヶ月程度では大きな変化はないと思う。当社でも、原油価格の高騰等に伴う輸送用船運賃の高騰や陸送コストの上昇等、収益的に厳しい環境である。
		製造業（鉄鋼業）	フル生産状態が続いている。この状況で、急に変化（悪化）が起こるようには感じられない。
		運輸業（道路貨物運送業）	各荷主とも在庫数が増加しているため、年末までに動きが出てくると予想される。最近では、貨物のアイテム数も増加傾向にあり、更に細かく展開すると思われる。かつてのような大口の在庫は、今ではあまり目にしなくなった。
		金融業	現状を鑑みると、3ヶ月という短期間で、変化は期待できないと思われる。
雇用	人材派遣業	コンビナートの活況は当面継続するものと思われ、人材不足の状態も引き続き継続すると思う。	
	民間職業紹介業	大手企業の直接雇用や、求職者の正社員雇用へのこだわり等もあり、ますますマッチングが難しい状況になると思う。	
	学校就業関係者	物も売れているが、物価も上がっているため、景気としては変わらないのではないかと。	
	求人开拓員	仕事量は増えているが、依然として単価が厳しく、また原材料の値上がりもあり、景気が良くなるという程ではない。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	サラリーマンの給料が上がらないまま、税金や物価が上昇しているため、家計の負担は大きくなっている。また、年金問題等による先行き不安から、現在の家計消費はかなりの節約傾向にある。全てが最低価格のままでは、地方経済の先々までは潤わないと思う。匙加減ひとつで、流通分野の改善は可能ではある。国家、自治体、家計それぞれが、現行政策の改善を行っていく必要があるのではないかと。
		スーパー	ガソリン価格高騰に伴う一部商品の値上がりだが、消費行動を鈍化させるのではないかと。
		自動車販売店	安く表示しなければ、売れなくなっている。先行きは不透明だが、やや悪くなっていく気がする。
		小売業（菓子販売店）	今後、良くなる要素が見つからない。
		小売業（薬品店）	年金記録問題による将来への不安感が、この先も消費を鈍らせると思う。
		タクシー運転手	原油高により、電気やガス、ガソリン、食料品等が次々と値上がりしていくので、消費は冷え込み、景気もやや悪くなるのではないかと。
		クリーニング店	作物の売値は安いのに、資材は値上がりする一方なので、農家の収益は益々悪化するのではないかと。
	室内装飾業	一戸建て住宅を建てる人が減っているため、今後の受注についても見通しが付かない。	
	企業	製造業（飼料）	輸入穀物の価格高騰は、当分の間続くと考えられる。業界としては、末端畜産製品の値上げが浸透しないと、かなり悪い状況になっていくのではないかと。
		製造業（印刷・同関連業）	受注額の減少は今後も続くと思われる。
製造業（化学工業）		原油価格がこれ以上上昇するかどうかで大きく状況は変わるが、このまま上昇すれば、設備投資などにも影響してくると思われる。	
保険業		原油高騰や住民税増税の一方で、米価は安いままであり、今後地域の景気は厳しくなると思う。	
悪	家計	観光型ホテル	予約状況が芳しくない。利用者数の減少要因として、少子化の影響も大きいのではないかと。
		パチンコ店	射幸性の少ない機種への入れ替えという業界全体の流れもあり、客の投資金額が減少している。

(4) 県南地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良くなっている	家計	スーパー	飲食関係業者からの予約注文が、各部門に多数上がってきている。
		旅行代理店	行楽シーズンに入り、ツアーの予約件数は順調に伸びている。
		美容室	今秋の筑波山神社における挙式関連の受注が多く、大いに期待している。
	企業	製造業（食料品）	3ヶ月先は、年末商戦時期であり、例年最も忙しい。売上げも、年間で最多となる見込みだが、前年比でも、同等かもしくは上回ることになりそうだ。
		製造業（食料品）	年末を迎えるので、売上げは伸びると思う。
	雇用	公共職業安定所	製造業の求人活動が活発である。
やや良くなっている	家計	家電販売店	冬のボーナス商戦に後押しされ、売上げ増が期待できると思う。
		専門スーパー	中国製品への不安・不満の高まりに伴い、国内製品の需要の伸びが予想される。これにより、原材料から製品までが、国内で流通することになり、様々な業態で好調な動きが表れると思う。実際、当店においても、中国製品の輸入自粛を行っており、国内調達に変更している。また、鋼材や木材の原価高騰が収まり値下げ傾向にあるため、商品供給も潤沢である。一気に景気回復が見込めるとは思わないが、徐々に良くなっていくのではないかと。
		洋食食堂	例年、秋口からは好転する傾向がある。各種イベントも多いため、うまく便乗して乗り切りたい。現在までのところ、夜の予約状況はまずまずである。
		洋食食堂	日本人の習慣として定着したクリスマスや忘年会などがあり、来店客数は現在より多少増加すると見込まれる。
		都市型ホテル	大きな団体の宿泊や宴会等は減少しているが、その分、少人数の宴会や宿泊が増加しており、今後売上げも良くなっていくと思う。
		タクシー運転手	夜間の利用者が増加しており、今後も期待できる。
		ゴルフ場	予約の出だしが早くなって来ている。
	企業	製造業（食料品）	年末を控え、荷動きが良くなると思う。また、為替が115円/ドル程度で安定すれば、輸入材料の仕入価格が安定し、利幅が取りやすくなるので、推移を注視したい。
		製造業（窯業・土石製品）	民間企業の工場や大型ショッピングセンターの建設、茨城空港の開港に伴う周辺アクセス道路の整備などが、年末に向けて予定されている。
		金融業	大企業や大都市の好景気が、徐々に中小企業や地方にも波及しつつあると感じる。団塊世代の退職金と自由時間の消費が、市場の活性化を後押しすると思う。
	変わらな	家計	商店街代表者
スーパー			天候にもよるが、特に不安要素は見当たらない。このまま好調を保てると思う。
スーパー			特に大きな変化はないと思うが、今後、人件費アップやメーカー側の値上げが予想されるため、商品売価を値上げしたり、安売り回数を減らしたりすることになりそうである。
コンビニエンスストア			年金問題など将来への不安から、消費よりも、貯蓄に回る金の方が多いのではないかと。
コンビニエンスストア			客の様子に変化の兆しはなく、今後変化する要因も見当たらない。
衣料品販売店			バーゲン商品の売行きは良いものの、プロパーでの売行きは鈍い。
農産物直売所			野菜類の生育が進んでしまい、10～11月頃の品不足が心配される。また、米の作柄にも若干不安がある。
農産物直売所			秋の行楽シーズンで客数増を期待したいが、ガソリン価格が高騰しているため、あまり期待はできないかもしれない。
都市型ホテル			現在の景気上昇傾向は、微増ながら今後も継続すると思われる。
旅行代理店			これからのシーズンに期待したいが、あまり変わらないと思う。

(4) 県南地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	タクシー運転手	乗客の様子や会話からは、今後景気が好転する要因は感じられない。先行きに希望のある話題も出てこない。
		ゴルフ場	今後も営業内容に大きな変動は見られないと思う。ただ最近、社用での利用者が増加していたり、割高料金となる土・日の利用度が上がっているため、若干景気は上向いているのかもしれない。
		建築設計事務所	行政の政策次第で変わるかもしれないが、3ヶ月というスパンでは変わらないと思う。
		住宅販売会社	イベント効果などにより、現在は来場者が増加しているが、一時的なものかもしれないので、先行きはまだ何とも言えない。
	企業	製造業（一般機械器具）	今後3ヶ月では、大きな変化はないのではないか。
		建設業	この先も受注見込みは少ないが、何とか頑張って明るい年末を迎えたい。
		建設業（設備工事業）	景気が好転する材料は1つもないので、現状のまま推移するのではないかと。
		運輸業（道路貨物運送業）	自社倉庫に製品を保管し、外部委託を減らす荷主が現れた。このような傾向が広がれば、倉庫の仕事は少なくなるかもしれない。今後の推移を注視したい。
	雇用	学校就業関係者	学生の就職活動も一段落つくため、景気に左右されるような材料はあまりない。
		雇用相談員	大幅な内需拡大の動きでもあれば別だが、中小企業や個人の景況感に変化はないため、現状のまま推移すると思われる。
や や 悪 く な っ て い る	家計	スーパー	物価の上昇が心配される。
		和食食堂	年金問題など、先の見えない問題が山積しているため、今後益々消費を控える傾向が強まると思う。
		寿司店	材料費や燃料費が確実に値上がりしている。今後更に値上がりすることが見込まれ、収益悪化が懸念される。
		ゲームセンター	夏休みも終わり、秋口は例年、集客・売上げとも低下傾向となる。プライズ（景品ゲーム）やブリクラの人気も落ち着き、メダルゲームの新作入荷予定もないので、今後景気は悪化していくと思う。
	企業	農業関係者	現在の不安が現実となり、営農を続けられなくなっているかもしれない。先行きに明るい材料など見えない。
製造業（食料品）		中小企業は大手企業と同じ事はできないので、取引先との条件を見直し、お互いに利益が確保できるよう取り組まなければ、経営状況は更に悪化すると思う。	
製造業（印刷・関連連業）		印刷業に関しては、用紙の値上がり分を製品価格に転嫁することが厳しい状況なので、やや悪くなるかもしれない。また、円高や物価上昇の影響も気になる。	
製造業（窯業・土石製品）		政局が安定しないので、景気はやや悪くなるのではないかと。	
不動産業		県南地区における不動産物件の供給過剰状態は、今後も当面継続すると思われ、取引も停滞することが見込まれる。	
悪 く な っ て い る	家計	ガソリンスタンド	周辺にセルフサービスのガソリンスタンドが相次いでオープンした。セルフでは、人件費を抑えた運営が可能のため、年内は、常識を超えた安値販売が繰り返されるものと予想される。このため、益々利益を確保することが難しい状況になると思う。
		製造業（非鉄金属）	メーカーからの強いコストダウン要請を受けており、10月にも実施される見込みである。また、原材料やガス、その他の仕入価格は高値安定が続いている。製品販売価格はデフレ、製造原価はインフレの状況に変わりはなく、収益が圧迫される厳しい状況が続くと思われる。
	企業	建設業	引合いが激減している。見積りや契約の件数も昨年の半分程度になっており、先行きの見通しが非常に悪い。但し、県西方面やつくばエクスプレス沿線では、活気のある地区もあるようなので、方面を変えて営業してみたい。

(5) 県西地域 【先行き】

(ー：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	ー	ー	ー
やや よ く な っ て い る	家計	商店街代表者	3ヶ月後は12月なので、年末需要により、やや上向くのではないかと期待している。
		衣料品販売店	今夏の猛暑は例外として、9～10月の端境期を過ぎれば、需要・売上が伸びる実需期に入るので、店側に問題がなければ、それなりの業績は上げられると思う。
		家電販売店	近隣に競合店が出店する。今までは、市外店舗との競争だったが、今後は近隣での競争となるため、市内店舗での購買意欲が高まると見込んでいる。
		和食食堂	12月に新メニューを出すので、客数は増えると思う。
		都市型ホテル	宿泊予約状況等は、例年と比べ多いわけではないが、年末に向かい、これから忙しくなると思う。
		旅行代理店	秋の行楽シーズンということもあり、10～11月の予約はますますである。
		タクシー運転手	12月の忘年会需要を期待している。
		タクシー運転手	年末の繁忙期であり、客数・売上げの増を見込んでいる。
		ゴルフ場	温暖化による暖冬が予想されるため、来場者は前年を上回ると期待している。
		理・美容店	年末を迎えるので、客足は伸びると思う。
	企業	不動産業	店舗や事務所関係の客が増加している。
		サービス業（広告業）	7・9・10月はそれ程忙しくないが、11～12月には受注が増え忙しくなる予定である。
	雇用	学校就業関係者	前年に比べて、今年は8月に入っても求人の募集が多い。
	変 わ ら な い	家計	商店街代表者
スーパー			変わらないと思うが、原材料の値上がり分が商品価格に跳ね返った場合、消費が落ち込み、やや悪くなる可能性もある。
スーパー			今後も景気の好転は期待できない。
スーパー			現在の抑制された消費性向が、先行きへの不安感から発したものだとなれば、今後も極端に変わるとは考えられない。消費意欲の回復は、もはや景気だけの問題ではないのかもしれない。
コンビニエンスストア			収入が大きく伸びる要素はなく、むしろ先行きには不安材料の方が多い。しかし、本当に必要なものは買う、という消費行動は変わらないと考えられるので、3ヶ月後も売上げ等に変化はないのではないかと。
コンビニエンスストア			公共料金の支払件数は伸びているが、購入意欲は上昇しづらいと思うので、売上げの伸びは期待できない。
農産物直売所			新米の価格は、昨年よりかなり安くなりそうだが、その分販売量が伸びるという感じでもない。
専門スーパー			来店客は、日用品に関してもシビアな視点で購入の決断を下している。本当に必要な商品しか購入しない傾向は、今後も継続すると思われる。
和食食堂			周辺に大型ショッピングセンターが次々とオープンしている。当店の主力は日本蕎麦なので、ショッピングセンター内の飲食店とは競合せず、売上げにも大きな影響はないと思う。
和食レストラン、割烹			政治が安定しなければ、景気の変化もないのではないかと。
都市型ホテル			東京周辺では景気の良い話を良く聞くが、県内はまだ良くなってはいないと感じる。
タクシー運転手			客の様子や街の雰囲気などから、あまり良い印象を感じない。せめて、現状よりも悪くならないでほしいと思う。
ドライブイン			ここ数ヶ月の間では、良くも悪くもならないと思う。
ゲームセンター			安定した人気機種があり、店全体の雰囲気も良くなっているため、年末に向け客数は増加すると思われる。ただ、客単価は下降傾向なので、売上げとしては現在と変わらないのではないかと。
理容店	景気回復の気配が感じられない。		

(5) 県西地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	建築設計事務所	問合せ件数は増加しているが、実務の話にまで至っていない。
		住宅販売会社	これから3ヶ月では、見通しが立たない。
	企業	農業関係者	この先、良くなる要因がない。
		製造業（食料品）	原料高の影響も極みに達し、遂に商品の値上げに踏み切った。単純に価格を上昇させた商品もあれば、商品内容量を減らしたものもある。すぐに、売上げに影響するとは考えられないが、1パックあたりの少量化により、生産性は落ち込むものと見られる。
		製造業（食料品）	現状のまま推移すると思う。
		製造業（化学工業）	今年一杯は堅調に推移する見通しだが、アメリカの景気次第で、どうなるかわからない面がある。
		製造業（金属製品）	数ヶ月後の需要予測が立たない。
		製造業（電気機械器具）	現在の好況が当面続くだろう、という会話が雑談中に交わされている。
		金融業	企業の決算状況には改善が見られるが、経費削減等の努力によるものであって、今後販売や生産が増加するとは考えられず、景気は横這いで推移すると思われる。
	サービス業（コンサルタント業）	とにかく変化が感じられない。設備投資の話もほとんど聞こえてこない。	
雇用	人材派遣業	景気の良い話をあまり聞くことがない。	
	公共職業安定所	現在の新規求人の伸びは、医療・福祉産業の需要が大きいためであり、製造業からの求人は、新規学卒者でも減少している。このような傾向は、今後も当面継続すると思う。	
	就職相談員	変化の要因が見つからない。今後3ヶ月はこのままの状態推移すると思う。最低賃金の引き上げがどうなるか期待したい。	
やや悪くなっている	家計	自動車販売店	代替サイクルが伸びている。
		和食食堂	野菜の高騰、小麦や燃料の値上げ等により、粗利の低下が著しい。今後更にこの傾向は続くと思う。
		ドライブイン	売上げが右肩下がりになってきたが、今後もこの傾向は続くと思われる。
		レジャー施設	平日の集客が伸び悩んでいる。看板の設置やイベント関係の告知等により、集客増を目指しているが、数ヶ月での改善は厳しいと思う。
		クリーニング店	石油関連製品の値上がりに伴い、次々と他の商品も値上げされている。一方で給料は上がらないため、生活が大変だという声をよく耳にする。
悪くなっている	企業	農業関係者	今年の夏は猛暑で、8月末～9月初旬になっても残暑が厳しい。野菜農家では、暑さが長引くことで、生育への悪影響が懸念されるとともに、生産意欲の減退に拍車がかかるおそれもあるのではないかと。また、米生産者にとっては、米価の引下げが深刻である。平成19年産の米の買入れ価格は、JAの概算金で7千円だった。年末に3千円の追加支払は保証されるものの、所得確保が難しい状況である。
		製造業（印刷・同関連業）	サブプライム問題に端を発したアメリカの景気後退は、既に日本の市場にも影響が及んでいる。現在は景気が良い大企業も、今後円高が進行することで、輸出が制限され、売上げが大きくマイナスとなる可能性が高い。自動車産業の下請企業が多い地方では、下請けの受注減に始まり、地域の商・工業へと負の連鎖が広がっていく懸念もある。それ以外にも、雇用問題やコストダウン等、地方の零細企業にとって、先行きにプラスとなる材料は何も見あたらない。
		製造業（印刷・同関連業）	製品単価の下落が続いており、回復の目処が立っていない。
		製造業（窯業・土石製品）	寒くなると、作業能率が上がらず、稼働日数も少ないので、売上げは下がると思う。何とか売上げ目標に近づけるよう、受注確保に努めたい。
		建設業	景気が上昇する兆しを感じられない。
悪くなっている	家計	タクシー運転手	街全体が沈んだ印象で、活気がないため、客足は今後更に減少するのではないかと心配している。
		パチンコ店	1円パチンコや5円スロットなどにより、一時的に客足が回復していた店舗も、同質化の競争により、今後は悪化する恐れがあると思う。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	石材製品の建て控えという現状を、打破もしくは好転させる材料が見当たらないので、石材業界の景気は今後更に悪化するのではないかと。

Ⅲ 景気の判断理由 — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 開 連	商店街代表者	商店街近くの居住区域に大型食料品店が出店する計画に対して、商店街の商業者が出店反対の署名運動を行った。これに対して、自治体や出店サイドがどのように対応してくるか、今後の推移を見守りたいと思う。
	スーパー	中国製品の安全性に対する危機感が、これまで以上に表面化している。中国産というだけで、買わない消費者も増えている。産地へのこだわりや内容物、日付など、食の安全への関心が高まっていると感じる。
	スーパー	最近、求人広告チラシの発行回数や配布枚数が多いような気がする。時給のアップ率も大きくなっている。
	コンビニエンスストア	今まで100円で買えたペットボトルが、特売チラシにも掲載されなくなった。原油高等のコスト増が要因となっていると思われる。各種原料高の影響が、徐々に身の回りにも出てきたと感じる。
	コンビニエンスストア	かつての主力商品である弁当や冷たい麺類などの販売額が低下する一方、サンドイッチや西洋風惣菜などが大きく売上げを伸ばしており、売れ筋商品が変わりつつある。
	衣料品販売店	50～60代の女性客は、退職後は買上げ金額が減少する。
	農産物直売所	土産品の売上げが減少している。
	ガソリンスタンド	周囲のガソリンスタンドが、どんどん閉店している。
	小売業（水産物）	客の様子を見てみると、「ハレ（晴）」と、「ケ（曇）」を区別して、買物や食事をしているようだ。「ハレ」の日（祝祭日）は売上げが伸び、「ケ」の日（平日）は売上げが落ちる。
	スナック	金利の関係かもしれないが、新築マンションの販売が好調なようだ。また、家を新築する人も増えているようなので、案外景気はゆっくりと回復しているのかもしれない。
	和食食堂	会津地方の山都そば粉を使用しているが、その味が客に浸透してきたようで、最近注文が増えている。これからがシーズンなので、売上げ増に期待している。また、ここ半年程、大工さんや建築現場の作業員の方が多数来店される。県北地区の建築ラッシュはこれからまだまだ続くのだろうか。
	観光型ホテル	自分にとって満足度が高いコトやモノに対しては、惜しげ無く支出するが、それ以外にはお金を使わない。個人で、消費対象を選択する基準が、明確になってきているように思う。
	観光型ホテル	最近、突発的な予約もかなり多く、客入りの予測が難しい。だが、徐々にではあるが、景気は回復しているように思う。
	ドライブイン	隣県の栃木県や福島県の観光地や避暑地でも、今年は酷暑のため、客足が伸びなかったと聞いている。
	ゴルフ場	コンペの料金交渉については、以前は地元のプレーヤーが多かったが、最近は都市部の人が多くなってきたように思う。
	レジャー施設	周辺地域では、次々と高層マンションが建設されている。これに伴い、新住民が増加することを期待している。
	理容店	技術売上げは、それほど影響がないものの、周辺にスーパーマーケットやドラッグストア等の量販店が増えてきているので、店販売上げが若干下がってきている。
	美容室	時々利用していた飲食店が、突然閉店し、経営者は行方不明だという。市内の飲食店の客足も落ちているようだ。大企業の景気は上向きだと言われるが、地方にはまだその恩恵が波及していないと感じる。
	企 業 開 連	林業関係者
水産業関係者		金融機関の不良債権処理は、地方で急速に進んでいる。今年既に2件の大手冷凍加工業者が強制競売に掛けられ、全財産を処分された。更にもう1件、競売に掛けられる予定の業者があり、町の水産業界は先行き不透明な状況にある。
製造業（食料品）		施設等の整備に加え、先々には公共料金の増加などが見込まれ、収益にも影響が出ると思われる。
製造業（電気機械器具）		昨年からは、毎月のように値上げが続いていたステンレス鋼板の価格高騰がやっと止まった。製造業分野では、材料費が高騰しても、製品単価のアップには至らず、加工費を圧迫し続けていた。未だに苦しい現状に変わりはないが、とりあえず、高騰にストップがかかり、ほっとしている。
製造業（電気機械器具）		衣料品の販売は、以前より季節の先取りに拍車がかかり、在庫一掃セールが短い気がする。また、セール前の定価でも、販売が好調なようだ。

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関連	製造業（電気機械器具）	事業再編に伴い、新たに建屋を竣工することになった。
	製造業（電気機械器具）	市内の商店街で、店仕舞した店舗が3件あった。小規模な店舗では、もう競争に生き残れないようだ。
	製造業（電気機械器具）	親工場の一部では、取引や発注の体制を変更し、生産の内作化及び外注品目の見直しを行なっている。
	金融業	日立市内に、3棟のマンション建設計画がある。
雇用 関連	求人広告	「予算が取りづらい」、「予算が縮小された」という話を良く耳にする。巷では景気が上向いていると云うが、周辺では、日に日に景気が悪化しているような気さえする。
	求人開拓員	中国で人件費が上昇しているため、解決策として、ベトナムやインドへ製造工場を移転する企業が増えている。下請け企業の社長達は、そのような大手企業の動きに追随して良いものか、判断に苦慮しているようだ。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	インターネットの普及により、ネット通販の利用者が増加している。価格も安く、またかなり専門的な商品も取り扱っており、足を運ばずとも購入できるため、地域の専門店から成る従来の商店街にとっては、段々影響が大きくなっている。
	商店街代表者	南町2丁目商店街では、9月22日に第20回イタリアフェスティバル、10月19日にはミーモ開店記念としてエコバックをプレゼント、10月27日にはハロウィンイベント、12月に入ると商店街全体をイルミネーションで装飾し、12月22日にはサンフェスティバルを開催、と秋から冬にかけてイベントが目白押しなので、人の流れが商店街に向くことを願っている。
	百貨店、総合スーパー	認知度の高いブランド商品は、相変わらず好調な売行きである。少し背伸びをしても、周囲が認めてくれるものを身に付けていれば、自分の価値も上がる、という心理が働いているのではないかと。
	スーパー	商品価格に対する消費者の目が、以前よりも厳しくなっていると感じる。
	コンビニエンスストア	安価な商品ほど良く売れている。
	家電販売店	大型ショッピングセンターの進出や後継者問題等により、商店街では、シャッターを下ろす店が益々増え、寂れていくばかりである。特に、値段だけで勝負している店は、弱肉強食の結果、もう再起は望めなくなっているようだ。
	レストラン	食材や燃料の値上りにより、原価が少し上がっているが、価格に転嫁できる状況ではない。消費者も、物価の上昇に伴い、消費を控えるようになるのではないかと心配している。
	ファミリーレストラン	前年に比べ、客数及び売上げが低下している。現状をどこまで悪化させずにキープできるか、がテーマになってきている。
	割烹料理店	食事を提供する食堂は、価格面では大量生産のコンビニ弁当に負けてしまう。最近では、コンビニだけでなくスーパーでも、手作り弁当などを安価で販売しており、益々客離れが懸念される。
	都市型ホテル	ガソリンの値上がりにより、運送業関係は、収益確保が厳しいという話を、最近耳にする。また、流通・小売業関係も、ガソリンや食材価格が上がっているため、売上げが伸び悩むと思う。
	観光型ホテル	来県状況では、首都圏エリアから旅行者の伸びに比べ、東北方面からの入り込みが減少している。本県在住者の旅行傾向は、近場と沖縄など飛行機利用のケースとに二極化している。これも地域格差の表れなのだろうか。
	旅行代理店	高所得者層は、時間に余裕の有る層と無い層に分かれ、中間層は、仕事が忙しくなっているものの、旅行する程の余裕はない。低所得者層は、廉価商品を購入していたが、段々その余裕もなくなっている。旅行という視点で見ると、各所得層ごとに、悪化する傾向にあるようだ。
	タクシー運転手	一般的に言われているような、景気回復の実感は感じられない。
	タクシー運転手	飲食店利用者の帰宅時間が早くなっているようで、深夜0時を過ぎてからの乗客が減っているように思われる。
	タクシー運転手	夜の繁華街の出入が、以前に比べてかなり減少しているのが気に掛かる。
	タクシー運転手	水戸駅南口では、ビルが多数建設されている。多少景気が回復しているという表れなのだろうか。
	ゴルフ場	法人関係の利用が増加しているので、景気は上昇傾向にあるように思われる。
	ゲームセンター	大型店の方へ客が集まっている。
	レジャー施設	7月にラッコの赤ちゃんが誕生し、一般公開も開始した。来場者にも可愛いと好評である。
	建築設計事務所	半年から1年先を見据えて、借入金や消費税が上がる前に契約したいという設計依頼が、ぼちぼち見受けられる。
企業 関 連	製造業(食料品)	箱詰め商品よりも、色んな味を楽しみたいという意向で、1個ずつバラで何種類も購入するケースが増えている。最小限必要なだけ購入しているようだ。最近では、材料や添加物に関する問合せも多い。また、お菓子の売行きは、1年を通して、天候に大きく左右される。
	製造業(印刷・同関連業)	原油高に伴い、ガソリン価格が高騰しているが、他の製品も追随して値上がりするのではないかと懸念している。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
企 業 関 連	製造業(金属製品)	このところ、比較的業歴の長い地場ゼネコンの倒産が目立った。
	製造業(一般機械器具)	商店街には活気がない。店主も元気がないように感じる。
	製造業(精密機械器具)	年1回開催される展示会は、今年過去最大の規模となった。一時期は参加企業が減少傾向だったが、ここに来て、景気回復と旺盛な設備投資を見込んで、積極的な参加となったようだ。
	運輸業(道路貨物運送業)	燃料高が、収受運賃に反映されているような報告が見受けられるが、そのような実感はない。
	情報通信業(情報サービス業)	原油や素材の高騰が続いており、比較的好調だった製造業においては、価格転嫁の問題を抱え、徐々に危機感が出てきているようだ。これは中小企業で特に感じられる。一時的なものであっても、円高効果が現れてくるのかどうか一向に見えてこない。一方、海外を含めた行楽地への人出や、買い物客の様子を見ると、マスコミ等で言われている程、個人の所得格差は感じられない。格差の問題というより、今を楽しもうという意識の表れなのだろうか。
	サービス業(広告業)	首都圏の広告代理店の拠点が進出してくることで、より一層の激戦となっている。体力の無い地場代理店は、消耗戦による苦戦を強いられている。近頃県内に新店が相次いでいる大型ショッピングセンターは、本社が他県のため、地場代理店への広告発注が少ない。
	サービス業(コンサルタント業)	ローカルマーケットは需要が弱い。飲食店の場合、新規出店はパイの食い合いになってしまう。
雇 用 関 連	人材派遣業	直接雇用の動きが活発な一方で、登録者は激減しており、人材の確保は一般企業と同様にかなり困難を極めている。現状を打開するためには、より一層の工夫が必要となるだろう。
	公共職業安定所	平成20年3月卒の高校生用求人、8月末現在で1,112名来ており、前年同月比で8.8%増加している。求人倍率も1.01で、昨年の0.94を0.07ポイント上回った。景気回復や団塊世代の大量退職を見越した企業の採用増が要因と考えられる。また、12月に牛久市に大型電化製品販売店が新店出店に伴い、50名の求人募集を受理した。公共職業安定所では、子育てをしながら就職を希望している方に対する再就職支援を充実させるため、5月7日、ハローワーク水戸付属庁舎1Fに、マザーズサロンをオープンした。職業相談を始め、市町村と連携した保育所情報の提供など、総合的な就職支援を行っており、1日平均30人弱の利用がある。
	学校就業関係者	7月中旬に、水戸市中心部にある旧ダイエー水戸店跡の再利用計画が明らかにされた。近年、水戸市近郊では、大型商業施設の開業ラッシュが続いているが、今回の再利用計画が、買い物客の流れを一部でも変えるようなインパクトがあるかどうかは疑わしい。都市中心部の空洞化を食い止めるための行政側の総合的な対策がなかなか見えてこない。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	近所の文房具屋では、百元ショップの利用者が増加したため、客足が激減しているらしい。また、野菜の漬物業者の話では、商品の包装に「原産国：中国」と表示してあったため、卸先の店に客からクレームが入り、撤去の依頼があったそうだ。多くの先進国では、食糧自給率が100%以上である。関税や輸出などの調整を図り、今こそ国産品の振興に取り組むことが重要だと思われる。
	商店街代表者	経費の削減や借入金の返済など、各事業所とも、資金繰りに苦慮している様子が伺える。
	商店街代表者	鹿行地区は、工業地帯を抱える土地柄上、大企業の動向により、地元景気も左右されるところがある。しかし現在、大企業が好況を呈している一方で、地元の小規模商店の経営状態は依然として苦しいまま変わっていない。
	コンビニエンスストア	景気の良い人・悪い人、お金の有る人・そうでない人、無駄遣いのできる人・できない人、という差が大きいような気がする。また、携帯電話等の通信費に使うお金は多くなっているが、物にかけるお金は減っているようにも思う。
	家電販売店	30代ファミリー層の来店が増えている。また、シングル（単身者）需要も多い。
	小売業（金物店）	大企業では、夏のボーナスがかなり高額だったようだが、中小企業では、とても出せるような額ではない。いろんな格差が出てきていると感じる。
	衣料品販売店	パートタイマーやアルバイトの募集に、20歳前後の若者の応募が殺到する。依然として、正社員としての雇用先やフルタイムでの勤め先は限られているようだ。
	洋食食堂	先日市内の夏祭りが行なわれたが、各地区からの花代（寄付金）は前年より20～30%減った。
	割烹料理店	企業の設備投資が活発に行なわれており、下請けの会社まで、景気が良くなっているようだ。
	日本料理店	急な企業接待の予約が多く入るようになったり、フリーの客が増えたり、当店では良い方向に向かっていると思う。しかし先月、近所の個人経営の飲食店が店を閉じた。フランチャイズチェーンの店は増加しているが、個人経営の店は「客に選ばれる店」になっていかないと、今後生き残りは難しいかもしれない。
	タクシー運転手	タクシー業界は今後、運賃の値上げ、禁煙車の導入、規制緩和の廃止など、耳目を集める問題が山積しているが、いずれも業界に良い影響が出る結果となることを期待している。
	タクシー運転手	遠距離利用者の減少が目立つ。
	企 業 関 係	観光名所
パチンコ店		住民税の増税や年金問題などで、将来の生活に不安を感じているという声をよく耳にする。
クリーニング店		近所の縫製会社では、職員送迎用の大型バス3台を廃車した。この他にも、残業時間や高齢職員の勤務日数を減らしたり、残業時に出していた弁当を、仕出しから自家製にする等、経費節減に努めているらしい。
製造業（食料品）		周辺では、大型店やフランチャイズ店の進出が多いが、飲食店以外にもガソリンスタンド等では、価格競争に負けて閉鎖する店舗が目につく。昔から在った店舗の多くも閉鎖してしまった。このような結果、何も無かった場所に新しい商店街が出来ていくのは、大きな環境変化であり、これに対応していくためには智恵と企画力と実行力が必要になるだろう。
製造業（飼料）		輸入穀物の価格高騰や海上運賃の上昇により、当分の間飼料価格は高騰すると予想される。それを受け入れる畜産業界は、末端価格の値上げにより活路を見出すより仕方がないと思われる。
製造業（印刷・同関連業）		客先からの注文内容が変化している。日常的に使用する伝票や日報が減少し、販促に使用する印刷物が少し増加している。
製造業（化学工業）		春先頃には、倒産の連絡が相次いだ。最近はないので、景気も回復傾向かと感じている。
製造業（化学工業）	現在、鉄材や人手が不足気味で、設備関係の工事には、従来より長い納期が必要になっているようだ。	
製造業（鉄鋼業）	周囲でアパートの建設が目につく。	
建設業	鹿嶋市では都市計画区域内地域の線引きを予定しているようだが、旧大野村住民の間では反対運動が起きて、70%程度の署名が集まったらしい。建築規制は建設業界にとっても大きな制約になるので、出来れば線引きはして欲しくない。	

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業関係	運輸業（道路貨物運送業）	貨物の入庫に関して、予測が付き辛くなってきている。今までは計画的に連絡があったのだが、急に連絡が入ることが多くなった。入庫だけでなく、運送に関しても、突然のオーダーが増えてきている。
	運輸業（道路貨物運送業）	8月も油の値上がりは大きかったが、運送料金へ転嫁することはできず、経営的に苦しいとの声と同業者から多く聞かれた。しかし、9月に入り、若干値下がりしたので、今後の価格動向を注視し、更なる値下がりに期待したい。
	金融業	神栖市では、大手外食産業の出店が顕著である。
	保険業	内閣改造により、本県選出議員が財務大臣に就任した。財政再建という難しい課題を抱えているが、国・県・市町村それぞれの取り組みにより、大臣の地元である鹿行地区でも、景気の良い、明るい話題が出るよう希望したい。
	不動産業	銀行からの借入時、固定金利を選択する客が多い。
雇用関連	民間職業紹介業	職業紹介業や人材派遣業においては、求職者や登録スタッフの確保が最大の課題となっており、業界全体において人材不足感が拭えない。
	求人開拓員	採用を控えていた時代の年代層を補うため、今まで中途採用をしなかった大手企業から、技術系の20歳後半から30歳前半の求人が出ている。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	スーパー	競合店を見て回ると、勝ち組と負け組の差ははっきり出ていると感じる。勝ち組の売り場は、ボリューム陳列がされ、活気が溢れているのに対し、負け組の売り場では、日に日に陳列スペースが縮小されている。
	コンビニエンスストア	コンビニ利用者の消費傾向は、サービスに対しては積極的な行動を見せるものの、物販に関しては依然としてシビアである。
	衣料品販売店	新学期などの行事関連商品に対しての購買意欲は高いものの、それ以外はなかなか売れない。必要な商品、売れる時期が絞られている。
	農産物直売所	異常気象や世界的株安の影響が、日本でも強く実感される。
	農産物直売所	以前と比べ、来店する客も車も少ないような気がする。
	ガソリンスタンド	土浦市でも、大型ショッピングセンターの工事が始まり、来年10月にはオープン予定である。商店街の店主からは、益々厳しい状況に追い込まれることを懸念する声が聞かれる。
	和食食堂	つくばエクスプレス沿線の研究学園地区は、良い状況にあるようだが、それ以外の県南地区には景気の良い話はない。
	洋食食堂	宴会や法事を主に営業していた和食店や家族経営の中華料理店が閉店した。先日の飲食店組合の会合でも、「8月の売上げは最悪だった」、「どうにもならない」という声が聞かれた。一方、近所に開店した居酒屋風の店舗は、医者から、労務作業、年金生活者、新聞配達員や若者まで、幅広い客層に好まれているようだ。
	寿司店	今年の暑さには、老いも若きも参っている様子である。近くで、涼しくて、金がかからず楽しめる場所はないかという話題で、近所の人達と盛り上がっている。
	都市型ホテル	8月は、市内各エリアで夏祭りが開催された。日程が重複していたこともあったが、マンネリ化している祭りは集客が悪かったようだ。逆に、多くの客を集めた祭り会場では、売上げが相当上がったらしい。
	旅行代理店	つくばエクスプレスも開業2年目が過ぎ、学園都市や筑波山方面への旅行客が増加している。今後も県外への茨城県のPRを推進していくことで、更なる増加が期待できると思う。
	タクシー運転手	ゴルフ場の利用客が多くなったように思う。
	タクシー運転手	社用でのタクシー利用頻度が減少しているように思う。
	ゴルフ場	各コンペへの参加人数が、少しずつ多くなっている。人が集まるようになったのは、それだけ、生活に余裕が出来たということなんだろうか。
	ゲームセンター	家庭用ゲーム機器の普及には、目を見張るものがある。ゲームセンターに家庭用ゲーム機器を持ち込み、遊んでいる人もいた。また、小学生でもパソコンを使い、ネット上で遊んだりしているらしい。
	レジャー施設	2010～2015年頃、撤退したホテルの跡地に、複合施設が建設される予定なので、3年後を楽しみに仕事に励んでいる。
	美容室	地域商品券が多数出回っており、当店でもその商品券を利用して支払いをする客が目立つ。また、まちづくり活性化バス「キララちゃん」でも、バス通貨「キララ」（協賛店舗等で千円以上の買い物をすると1枚もらえる）を使用する人が増えている。バスの試行運行時は、現金利用者が多かったが、本格運行後は、キララ乗車券の利用者が増えた。地域商品券もキララバスも、商店街の活性化に大いに貢献していると思う。
	建築設計事務所	耐震診断関係の仕事が増えてきた。
	住宅販売会社	つくばエクスプレスの影響なのか、客の動きが良くなってきた。
企 業 関 連	農業関係者	農地や農業用水、農村環境の保全などに関わる施策が、平成19年度から大きく変わった。これによると、収入減少時の補填拠出金の生産者負担割合が減るものの、収入減少影響緩和交付金を始め各種の交付金受給要件は厳しくなっている。国では、出すものを出さないで済むのだから収入増だと考えているようだが、これではセイフティネットとして不十分である。地方や農村が置き去りにされつつあることを身に沁みて感じている。
	製造業（食料品）	つくばエクスプレス関連の宅地造成が進み、つくば市内は建築ラッシュの感がある。しかし、旧住民や地元業者には、景気が良くなったという実感が無い。
	製造業（食料品）	食品業界は、原材料の価格の上昇分を製品に転嫁できず、苦しい経営状況が続いている。また、建設業界は、仕事そのものが少なく、やはり経営的に厳しいという話を聞いた。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関連	製造業（食料品）	地域にもよると思うが、飲食店やタクシー業界は、非常に景気が悪いと聞いた。
	製造業（飲料）	一般庶民には景気回復感はないが、何となく景気が良く見えるのは、二極化のせいだろうか。
	製造業（印刷・同関連業）	最近、食料品や衣料品が値上がりしている。
	製造業（窯業・土石製品）	先日、札幌へ行ってきたが、ホテルや空港、繁華街などは活気があったように思う。地方でも、このように元気な街はあるのだと思う反面、やはりほんの一部なのだろうかと思ったりもする。
	製造業（非鉄金属）	競争原理やグローバル化を、政府が推進、主導してきた結果、大手メーカーは収益至上主義に走り、弱小企業は切り捨てられ、日本の「ものづくり技術」は海外へシフトしつつある。県も国も、現状を直視し、軌道修正を図るべきではないか。
	建設業	建設業界の知人達は「このままじゃやっついていられない」と口を揃えて言う。将来の見通しも暗いので、子供には跡を継がせず、他の職業に就かせたという経営者もいる。仕事柄、週に2～3回タクシーを利用するが、乗客もあまり増えていない様子で、景気が悪いと運転手がこぼしていた。また、飲食店の客入りも悪いようだ。先日、20時頃店に入ったら、今日初めての客だと言われた。その後、24時頃まで店に居たが、新しい客は来なかった。他にも、8月下旬頃に10件程の店を利用したが、2～3人の客入りがほとんどだった。最近では経費削減のため、店主・女将以外の従業員がいない店も多くなっているようだ。
	建設業	近隣の大手企業からの受注で何とか経営を維持しているが、今後、役所を含め他の事業所からの受注はあまり期待できないと思う。
	建設業（設備工事業）	長期の不良債権が多くなってきた。
	金融業	団塊世代の退職金は、暫くの間、色々な事を引き起こしていくと思う。
雇用 関連	不動産業	ひところ高騰したマンション用地の価格は、ここにきて一服した感がある。客の需要は、つくばエクスプレス沿線へシフトし、旧市街地の物件は苦戦している。限られたパイを分け合うことになるため、今後は、企業の体力格差と物件の立地条件により、益々二極化していくのではないか。
	公共職業安定所	県南地区へ進出する企業の増加が目につく。
	雇用相談員	求人数は増加しているが、企業で教育・育成する余裕がないため、経験・資格が問われる案件が多い。このため、若年層の中には、簡単なアルバイトを繰り返す者が見られる。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 係	商店街代表者	近所では、建売り住宅などの建築ラッシュである。供給が過ぎて、住宅需給のバランスが崩れることを心配している。
	スーパー	様々な販売促進手法を試みているが、買上点数は伸び悩んでいる。
	スーパー	周辺では、格差の話題が良く出る。企業間格差、個人の所得格差など、具体的には見えにくい部分で格差を感じる事が多い。また、政治不信の話題も良く耳にする。あまりにも不祥事が多いので、今後の生活が不安になる。政府にはもっとしっかりしてほしい。
	衣料品販売店	中国製品に対する不安感が、客の様子から見受けられる。ベビー服や衛生用品、玩具など、子供に関わるアイテムに対しては、特に警戒心が強いように思う。
	自動車販売店	市場が小さくなっているため、あらゆる商売で安売りに走っている感がある。これにより、企業の利潤は減少し、社員の待遇も低下している。
	農産物直売所	依然として、先行きが不透明、不安という声を良く耳にする。
	専門スーパー	中国産商品に関して、消費者は非常に敏感になっている。また、生活用品が次々に値上げされる一方で、所得は増えていないため、消費を抑えることで家計を遣り繰りしているようだ。ガソリン価格の高騰に伴い、遠方からの来店客が減少傾向にあるのも特徴的である。
	ガソリンスタンド	燃料価格の上昇も一段落付いたようだ。
	和食レストラン、割烹	来店客の様子を見ていると、「手の届く贅沢」をするようになったと感じる。単価の高いランチメニューや、御膳もの、かに料理やふぐ料理等、高価なものではなく、ちょっと贅沢なものを注文する客が増えている。
	都市型ホテル	どこに行っても、景気の良い話はあまり聞かない。業種ごとに差はあるようだが、特に土地は動いていないようだ。都市部と地方の格差を実感する。
係	タクシー運転手	当社全体での売上げは、昨年比で若干減少しているが、運転手不足のため1人あたりの売上げは昨年同時期よりも多い。
	タクシー運転手	今までは、多少でも上向きの感じがあったが、最近はそれすら感じられなくなっている。むしろ、失速の感もある。
	ゲームセンター	ゲームなどの娯楽にかける経費が、以前より減っていると思う。客を飽きさせないように、毎年バージョンアップしている人気機種でも、バージョンアップから半年も経つと空席が目立つようになる。
	理・美容店	利用客で、軽自動車などのコンパクトカーに乗り換える人が多くなっている。周囲でも、そういう話をよく耳にする。
	クリーニング店	定職に就いている場合は、30歳前後でマイホームを購入する人も結構いる。一方で、引きこもりやフリーターなど、親に依存した生活を送る若者もあり、格差社会を身近に感じる。
企 業 関 連	製造業（食料品）	近所で、家を新築する人が急増している。金利上昇前にローンを組んだのだろうか。
	製造業（食料品）	輸入原材料の値上がり止まらない。
	製造業（印刷・同関連業）	先日、銀座に行きブランド店を覗いてみた。様々な年代の人達が、数十万円のバックを簡単にカードで購入している。他のブランド店やデパートなども、買物客で一杯だった。また、ある寿司店では、30～40分待ちの行列が出来ている。その光景を見て、都会と地方の格差、富裕層と一般人の格差を感じた。資本主義社会で格差が生じるのは、制度上仕方がないことだが、この状況が、負け組の人達を犯罪等の悪い方向に向かわせるのではないかと不安を感じる。かつて、日本人の7割が中流意識を持っていた頃は、今よりも安心・安全な社会だったような気がする。また、参議院議員選挙で与党が惨敗したのは、地方景気が振るわないことも一因だと思う。地域の中小・零細企業を活性化させる政策を考えないと、本当に地方は終わってしまう。保守が強い本県で、与党候補がトップ当選できなかったという現実を、政治家も首長も県民も、今こそ考えるべき時なのかもしれない。
	製造業（窯業・土石製品）	同業者の人達に話を聞いても、客足が動かないと一同に口を揃える。また、近年増えてきた安売り業者でも、ほとんど客足が動いていない。将来の不安に備えて、今は物よりも金を大切に考えているのかもしれない。
	製造業（窯業・土石製品）	先日、栃木県佐野市に行ってきたが、行く度に、街が発展している様子が見て取れる。30年以上前から、市の土地開発公社を中心に、官民一体となって、町作りを考えていった結果なのだろう。政治・行政・民間のバランスの差によって、街の成長・発展度合いは変わってくるものだと感じた。
製造業（金属製品）	新規引合い品の件数が減少している。	

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業 業 関 連	製造業（一般機械器具）	現在は、仕事が中央に偏っている。これでは地方の町工場などで、景気が良い訳がないと経営コンサルタントが話していた。
	建設業	大型小売店舗出店の煽りを受け、既存商店街のシャッター通り化が加速している。また、小規模な工場でも、元気な所とそうでない所の差が目立ってきたように思う。
	金融業	大規模小売店の増床が決定し、地元の小売店は危機感を募らせている。
	不動産業	駅前など一部を除き、全体的に地価は下降している。
	サービス業（広告業）	企業や官公庁からの新規受注が入ってこない、本格的に忙しくはならない。だが、少しずつ受注が入ってくる感じはある。
	サービス業（コンサルタント業）	建設業及びその関連業種が冷え込んでいるようである。ここ数ヶ月の間に、数件の建設業者の倒産があった。また、原油価格の高騰に伴い、石油製品販売業も非常に危険な状態になっていると思う。
雇用 関 連	人材派遣業	先行きが不透明で、3ヶ月先くらいまでしか読むことができない。
	学校就業関係者	今年は昨年より、派遣会社の募集が多い。また、電気工事業の募集も多くなってきた。
	就職相談員	求人申込みは、退職者の補充を目的とするものが多いようだ。最近では、仕事が自分に合わないと、早期に辞めてしまう者も少なくない。